

男女共同参画社会づくりに向けての意識調査

アンケート結果

令和7年5月

茂 原 市

はじめに

男女が社会の対等な構成員として、互いにその人権を尊重し、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現は、我が国の社会にとって重要な課題の一つです。

21世紀を迎え、少子高齢化・高度情報化・国際化など社会環境が大きく変動する中で、家庭や職場、地域社会など日々の暮らしの中における私たちの生き方や考え方は、非常に多様化しています。

茂原市では令和3年3月に「茂原市男女共同参画計画（第4次）」を策定し、さまざまな施策を展開してまいりました。この計画は令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間としており、社会情勢やニーズの変化に応じて見直しを行うこととされています。

計画策定から4年が経過し、男女共同参画社会づくりに関する市民の皆さんの意識の変化をとらえ、市民生活を送る上で直面している新たな問題に対処するため、市では「茂原市男女共同参画計画」の見直しを進めています。

このたび計画の見直しにあたり、市民の皆さんの男女共同参画社会づくりに関するご意見を伺い、市が今後取り組むべき施策の基礎資料とするため、「茂原市男女共同参画社会づくりに向けての意識調査」を実施し、結果を取りまとめました。

このアンケート結果が関係機関や市民の皆さまに広くご活用いただければ幸いです。調査にご協力をいただきました市民の皆さまに心からお礼申し上げます。

令和7年5月

茂原市総合企画部企画政策課

目 次

1. 調査の概要	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査の内容	1
1.3 調査方法	1
1.4 回収結果	1
1.5 集計・分析について	1
2. 調査回答者の属性	2
2.1 性別	2
2.2 年齢	2
2.3 居住地区	2
2.4 住居	3
2.5 茂原市に住んでいる期間	3
2.6 職業	3
2.7 勤務地・通学地	4
2.8 同居家族の構成	4
2.9 婚姻	4
2.10 共働きの状況	4
3. 調査結果	5
3.1 男女共同参画の意識について	5
3.2 言葉の理解度	6
3.3 男女共同参画についての話し合いなど	8
3.4 性別役割分担意識	9
3.5 家庭における役割分担	10
3.6 理想の子どもの将来像	14
3.7 学校教育における男女共同参画の意識	15
3.8 合計特殊出生率の低い原因	16
3.9 主な介護者	17
3.10 介護における女性の役割	18
3.11 要介護状態になった場合の介護主体	19
3.12 男性の育児や介護に関わる時間	20
3.13 有給休暇や育児・介護休業等の利用しやすさ	21
3.14 望ましい女性の働き方	22
3.15 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと	23
3.16 セクシャル・ハラスメントの現状	24
3.17 セクシャル・ハラスメントの相談窓口	25
3.18 セクシャル・ハラスメントの原因	26
3.19 ドメスティック・バイオレンスの現状	27
3.20 ドメスティック・バイオレンスへの対応	30

3. 21	地域活動への参加状況	31
3. 22	男性の地域活動・家庭生活への参加促進	32
3. 23	女性リーダーが少ない理由	33
3. 24	審議会等への女性委員の登用状況	34
3. 25	男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと	35
3. 26	「L G B T Q」の周知度	36
3. 27	「L G B T Q」に関する人権問題	37
3. 28	男らしさ、女らしさ	38
3. 29	「L G B T Q」を受け入れられるかどうかについて	39
3. 30	防災・災害復興対策への女性の視点に配慮した対応について	41
3. 31	防災・災害復興対策で女性の視点が必要なこと	42
3. 32	男女共同参画社会の実現に向けた市への要望	43
3. 33	男女共同参画社会づくりに関する意見・要望	45
4	参考資料（調査票）	50
5	用語解説	70

1 調査の概要

1.1 調査の目的

この調査は、市民の男女共同参画社会づくりに関する意識・意向や生活実態などを総合的に把握し、次期男女共同参画計画の策定や各種施策の推進に反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施された。

1.2 調査の内容

- ① 男女共同参画の意識について
- ② 男女の役割分担について
- ③ 子育てと教育について
- ④ 高齢化社会について
- ⑤ 労働について
- ⑥ セクシュアル・ハラスメントについて
- ⑦ ドメスティック・バイオレンス（DV）について
- ⑧ 社会・地域参加について
- ⑨ L G B T Q（性的少数者）について
- ⑩ 防災・災害復興対策について
- ⑪ 市への要望について

1.3 調査方法

- | | |
|--------|------------------------|
| ① 調査地域 | 茂原市全域 |
| ② 調査対象 | 市内に居住している18歳以上の男女 |
| ③ 対象者数 | 3,000人 |
| ④ 抽出方法 | 住民基本台帳より無作為抽出 |
| ⑤ 調査方法 | 郵送配付・郵送またはインターネットによる回答 |
| ⑥ 調査期間 | 令和6年7月1日～8月19日 |

1.4 回収結果

- | | |
|-------|--------|
| ① 配付数 | 3,000件 |
| ② 回収数 | 815件 |
| ③ 回収率 | 27.2% |

1.5 集計・分析について

- ・ 調査結果の数値は、原則として回答率（％）を表記しています。
- ・ 回答率は小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している関係で、合計が100％とならない場合があります。
- ・ 回答率（％）はその質問の回答者数を基数として算出したため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100％を超えることがあります。

2 調査回答者の属性

2.1 性別

	回答数	構成比(%)
男性	370	45.4
女性	407	49.9
無回答	38	4.7
合計	815	100.0

2.2 年齢

	回答数	構成比(%)
19歳以下	11	1.3
20歳代	64	7.9
30歳代	104	12.8
40歳代	160	19.6
50歳代	126	15.5
60歳代	143	17.5
70歳代	110	13.5
80歳以上	66	8.1
無回答	31	3.8
合計	815	100.0

2.3 居住地区

	回答数	構成比(%)
茂原地区	283	34.7
東郷地区	131	16.1
豊田地区	67	8.2
二宮地区	55	6.8
鶴枝地区	68	8.3
五郷地区	86	10.6
本納地区	47	5.8
新治地区	13	1.6
豊岡地区	33	4.0
無回答	32	3.9
合計	815	100.0

2.4 住居

	回答数	構成比(%)
戸建住宅（持ち家）	639	78.4
戸建住宅（民間賃貸）	30	3.7
集合住宅（持ち家）	18	2.2
集合住宅（民間賃貸）	76	9.3
公営住宅	3	0.4
その他	14	1.7
無回答	35	4.3
合計	815	100.0

2.5 茂原市に住んでいる期間

	回答数	構成比(%)
3年未満	47	5.8
3年以上5年未満	34	4.2
5年以上10年未満	51	6.3
10年以上20年未満	96	11.8
20年以上	555	68.1
無回答	32	3.8
合計	815	100.0

2.6 職業

	回答数	構成比(%)
自営業	47	5.8
会社員	236	29.0
公務員・団体職員	76	9.3
専業主婦・主夫	87	10.7
学生	13	1.6
パート・アルバイト・派遣など	120	14.7
無職	177	21.7
無回答	30	3.7
その他	29	3.5
合計	815	100.0

2.7 勤務地・通学地

	回答数	構成比(%)
通勤・通学していない	216	26.5
茂原市内	204	25.0
長生郡内	81	9.9
山武郡内	25	3.1
千葉市内	78	9.6
その他県内	66	8.1
東京都内	38	4.7
その他	15	1.8
無回答	92	11.3
合計	815	100.0

2.8 同居家族の構成

	回答数	構成比(%)
自分だけ	80	9.8
夫婦・パートナーだけ	241	29.6
親と子（二世代）	389	47.7
親と子と孫（三世代）	48	5.9
無回答	37	4.5
その他	20	2.5
合計	815	100.0

2.9 婚姻

	回答数	構成比(%)
結婚している（未届だがパートナーと暮らしている場合も含む）	529	64.9
死別・離別	91	11.2
結婚していない	162	19.9
無回答	33	4.0
合計	815	100.0

2.10 共働きの状況

	回答数	構成比(%)
共働き	269	33.0
片方（男性）だけ働いている	104	12.8
片方（女性）だけ働いている	24	2.9
両者とも働いていない	127	15.6
無回答	291	35.7
合計	815	100.0

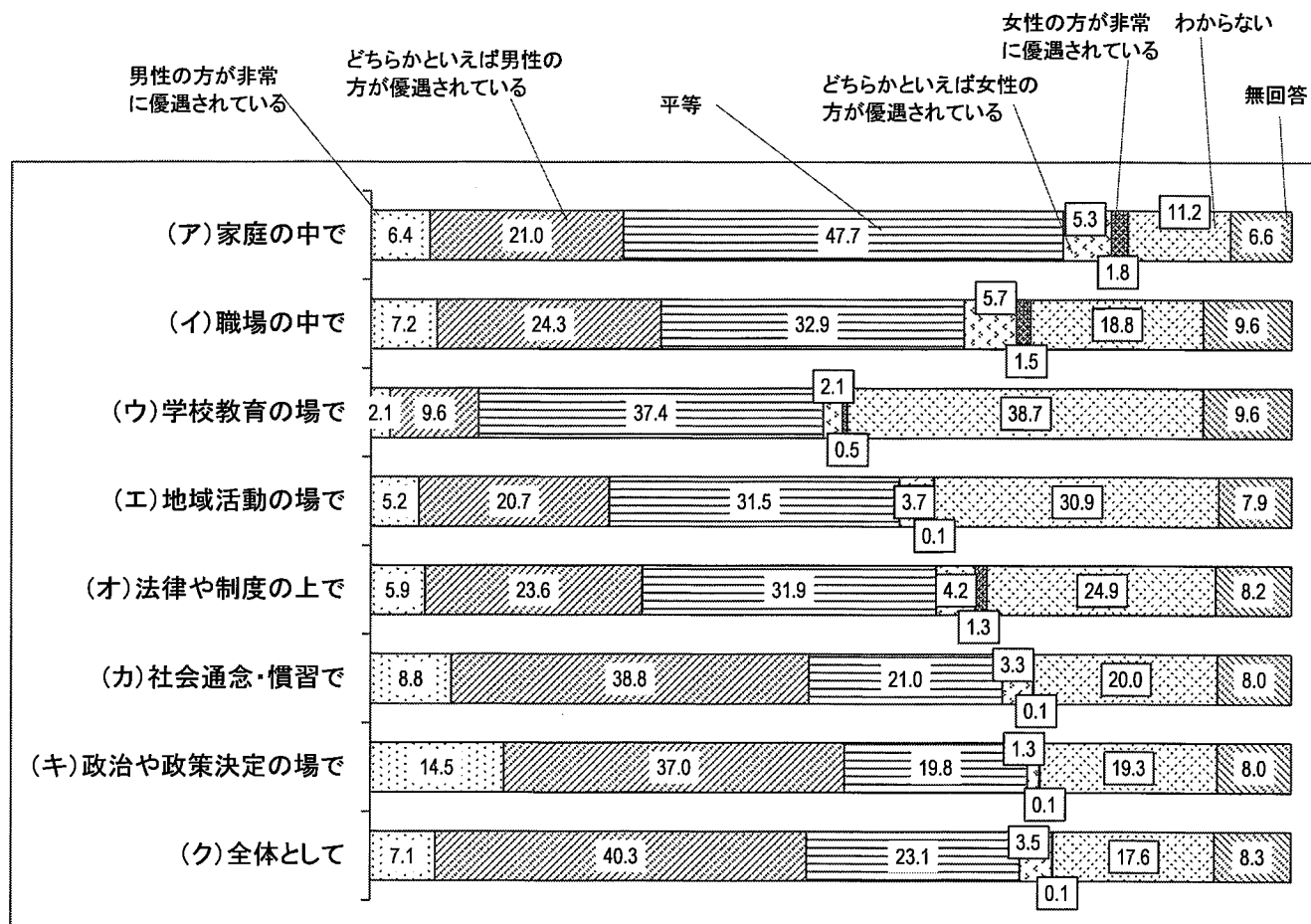
3 調査結果

3.1 男女共同参画の意識について

問1 現在、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。
それともそう思いませんか。（○は各項目1つずつ）

[n=815]
表中の数値は回答率(%)

	優男 遇性 さの にの 方 が 非 常 に 優 遇 さ れ て い る	優男 ど 遇性 さの ら か と い え ば	平 等	優女 ど 遇性 さの ら か と い え ば	優女 遇性 さの ら か と い え ば 非 常 に 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
(ア)家庭の中で	6.4	21.0	47.7	5.3	1.8	11.2	6.6
(イ)職場の中で	7.2	24.3	32.9	5.7	1.5	18.8	9.6
(ウ)学校教育の場で	2.1	9.6	37.4	2.1	0.5	38.7	9.6
(エ)地域活動の場で	5.2	20.7	31.5	3.7	0.1	30.9	7.9
(オ)法律や制度の上で	5.9	23.6	31.9	4.2	1.3	24.9	8.2
(カ)社会通念・慣習で	8.8	38.8	21.0	3.3	0.1	20.0	8.0
(キ)政治や政策決定の場で	14.5	37.0	19.8	1.3	0.1	19.3	8.0
(ク)全体として	7.1	40.3	23.1	3.5	0.1	17.6	8.3



3.2 言葉の理解度

問2 次の言葉を知っていますか。(○は各項目1つずつ)

[n=815]

表中の数値は回答率(%)

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
(ア) 男女雇用機会均等法	61.9	25.8	6.4	5.9
(イ) 男女共同参画社会基本法	33.5	33.8	26.0	6.7
(ウ) 女子差別撤廃条約	24.9	36.2	32.3	6.6
(エ) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	68.3	18.4	6.7	6.6
(オ) DV (ドメスティック・バイオレンス)	79.9	10.2	3.8	6.1
(カ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	20.9	28.6	44.3	6.2
(キ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	46.2	25.0	22.8	6.0
(ク) エンパワーメント (力をつけること)	18.8	25.0	49.8	6.4
(ケ) アンペイドワーク (家事・育児・介護・看護等の無償労働)	10.7	19.0	63.9	6.4
(コ) 男女ハートフル共生プラン ～茂原市男女共同参画計画～	7.7	21.7	64.2	6.4
(サ) パワー・ハラスメント (職場の立場を利用し受ける、精神的・身体的苦痛)	82.2	8.8	2.8	6.2
(シ) マタニティ・ハラスメント (妊娠・出産をきっかけに職場で受ける精神的・身体的苦痛や不当な扱い)	76.5	12.5	4.5	6.5
(ス) ジェンダーギャップ指数	22.8	28.5	42.6	6.1

※これらの用語の解説については70ページ以降に掲載しています。

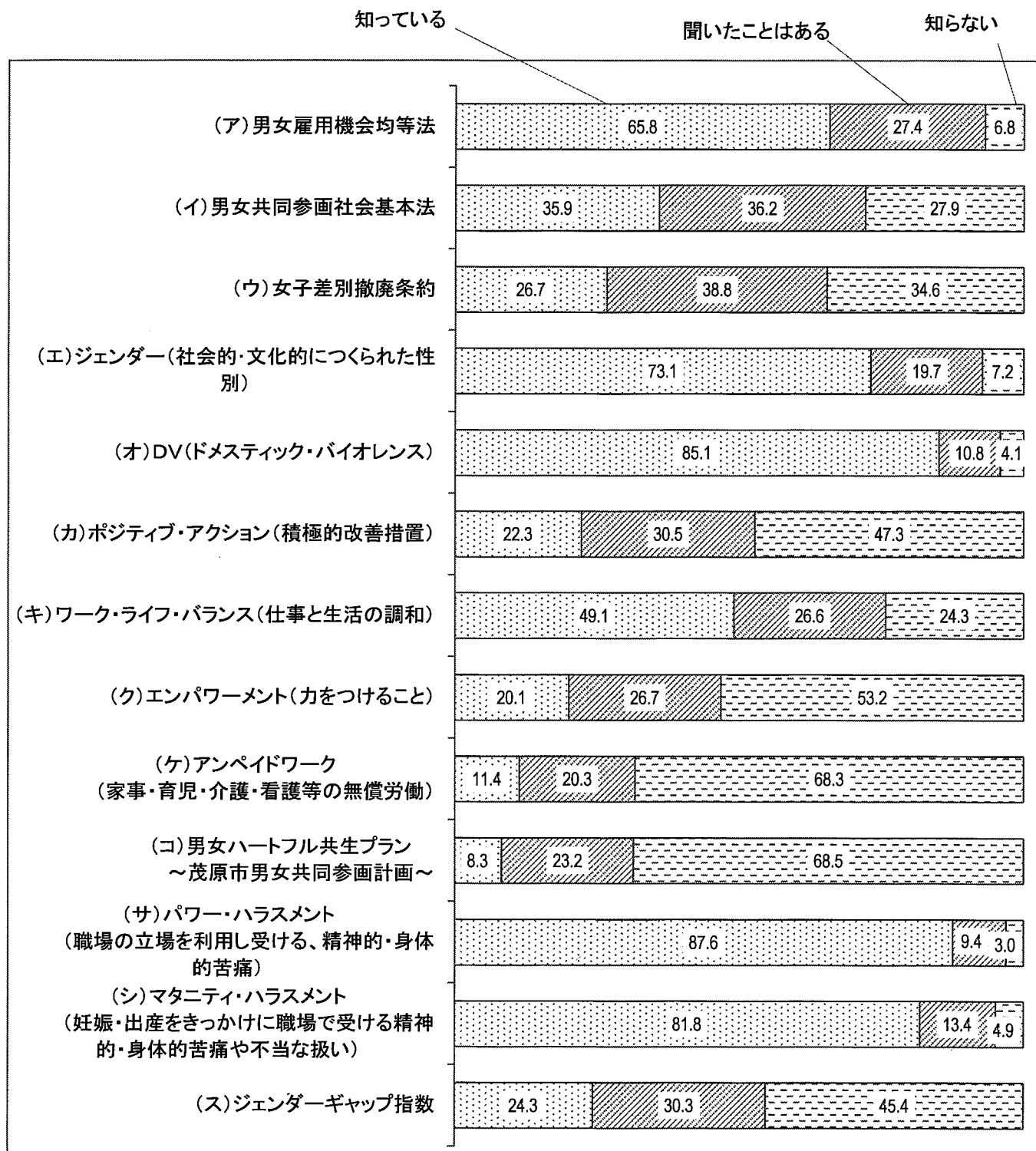
「知っている」上位5件

①パワー・ハラスメント	87.6
②DV	85.1
③マタニティ・ハラスメント	81.8
④ジェンダー	73.1
⑤男女雇用機会均等法	65.8

「知らない」上位5件

①男女ハートフル共生プラン	68.5
②アンペイドワーク	68.3
③エンパワーメント	53.2
④ポジティブ・アクション	47.3
⑤ジェンダーギャップ指数	45.4

※回答率は「無回答」を除いて再計算したもの

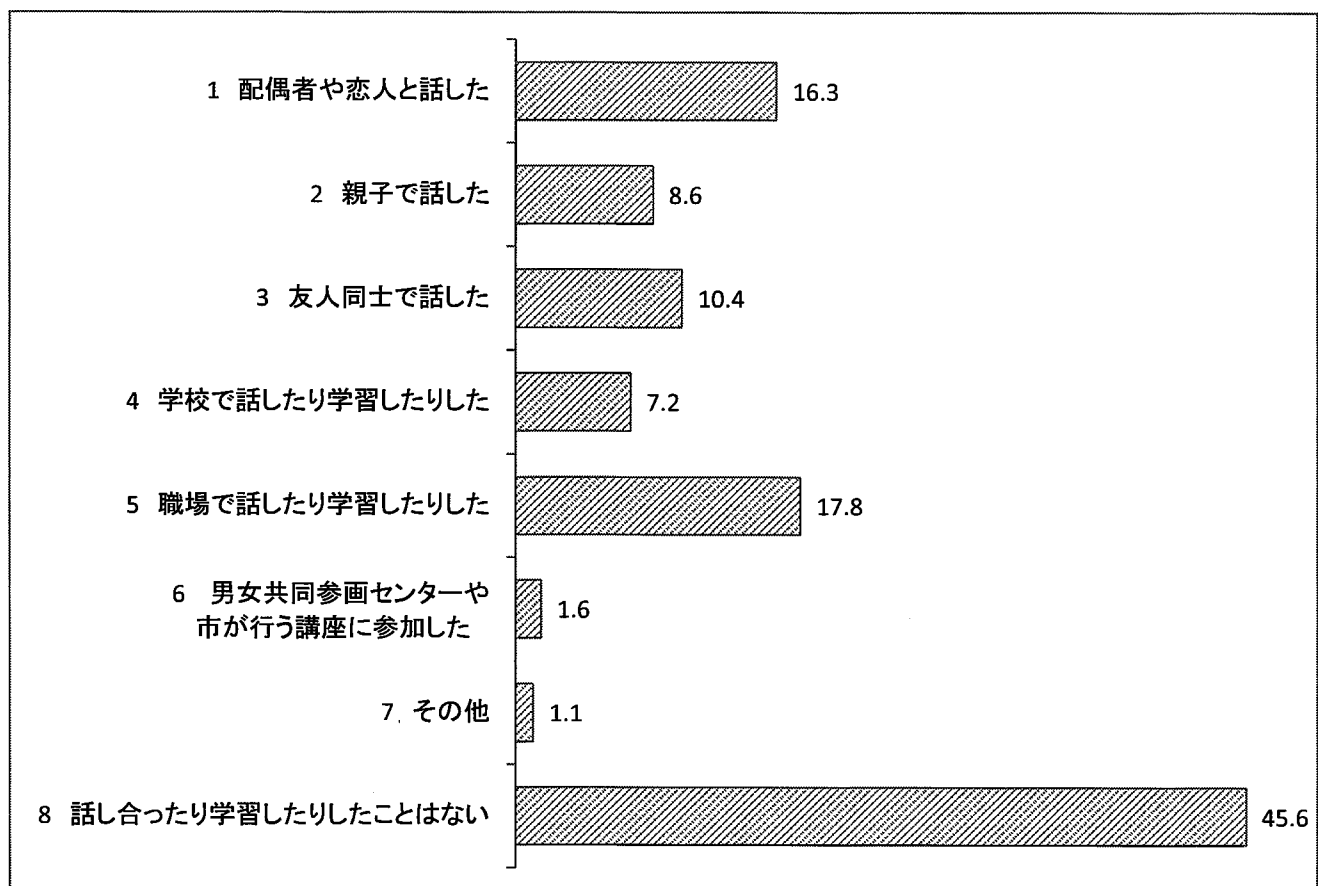


3.3 男女共同参画についての話し合いなど

問3 あなたは、男性及び女性の役割や地位など、男女共同参画について話し合ったり、学習したりしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 配偶者や恋人と話した	16.3
2 親子で話した	8.6
3 友人同士で話した	10.4
4 学校で話したり学習したりした	7.2
5 職場で話したり学習したりした	17.8
6 男女共同参画センターや市が行う講座に参加した	1.6
7 その他	1.1
8 話し合ったり学習したりしたことはない	45.6

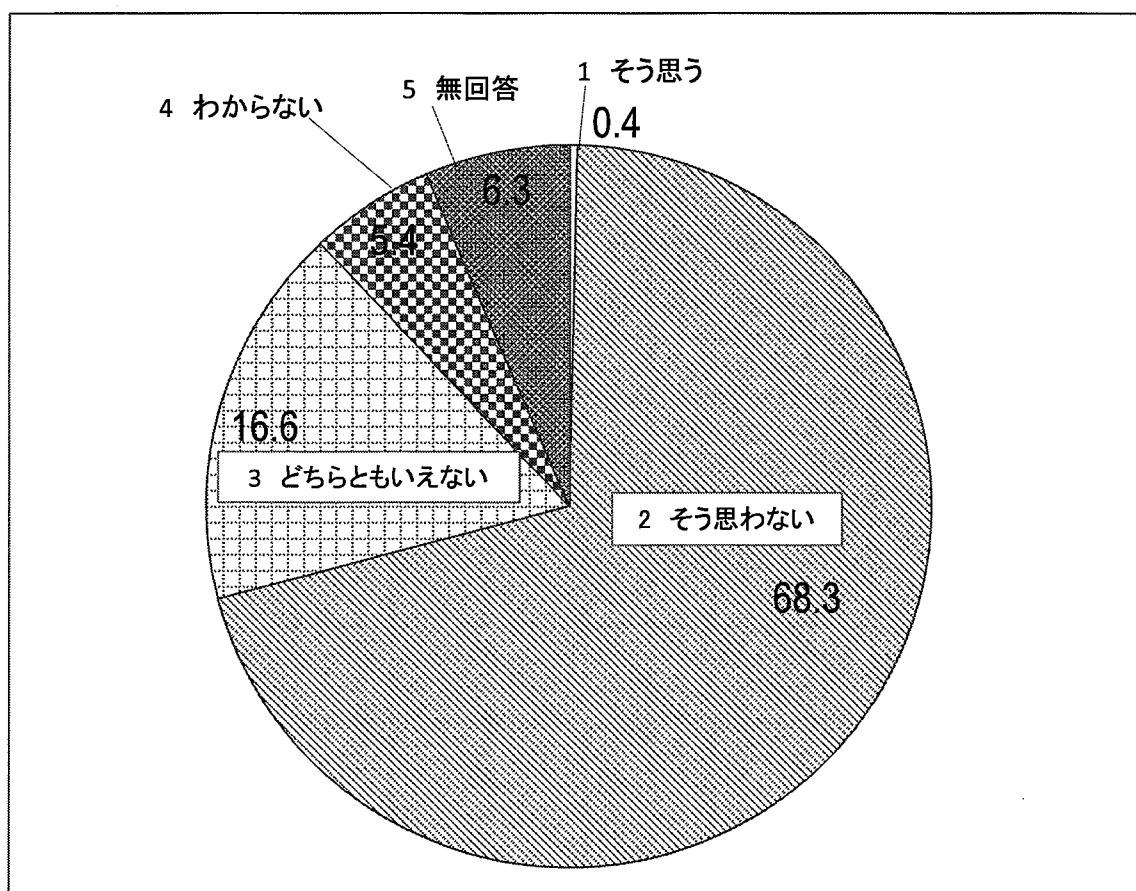


3.4 性別役割分担意識

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。
(○は1つだけ)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 そう思う	0.4
2 そう思わない	68.3
3 どちらともいえない	16.6
4 わからない	5.4
5 無回答	6.3



3.5 家庭における役割分担

問5 あなたの家では、次に挙げる仕事等は、主にどなたがしていますか。
または、過去にしていたか。（○は各項目1つずつ）

[n=777] 表中の数値は回答率(%) 配偶者・パートナーと同	回答者本人（男性）						無回答
	回答者本人（男性）	回答者本人（女性）	（配偶者・パートナー）（男性）	（配偶者・パートナー）（女性）	その他の男性	その他の女性	
（ア）食事の支度	3.2	30.6	2.8	24.2	0.0	0.1	38.4
（イ）食事の後片付け、食器洗い	10.1	27.4	0.5	18.6	0.4	0.1	42.9
（ウ）日常の買い物	6.0	28.0	3.8	22.6	0.0	0.7	38.9
（エ）掃除	8.6	28.0	4.5	19.8	0.1	0.1	38.9
（オ）洗濯	6.0	28.0	0.4	22.3	0.1	0.1	38.7
（カ）ごみ出し	17.8	14.6	15.5	11.7	1.0	1.2	38.3
（キ）大工仕事や電気製品の管理	27.2	6.9	23.2	2.9	0.7	0.1	38.9
（ク）役所や銀行などへの用事	16.0	23.4	8.5	12.1	0.1	0.5	39.4
（ケ）高齢者や病人の世話	7.0	23.6	3.3	15.3	0.6	2.3	47.9
（コ）町内会や自治会の出席	19.3	9.6	16.7	6.0	2.1	1.2	45.2
（サ）子どもの教育	4.2	25.3	1.8	17.9	0.2	0.4	50.2
（シ）学校行事への参加	5.0	25.5	1.2	17.5	0.1	0.5	50.1
（ス）家計の管理	9.1	26.1	5.0	19.0	0.2	0.5	40.0
（セ）財産・資産の管理	17.4	19.0	10.6	11.8	0.4	0.5	40.4
（ソ）家庭内での主導権	15.1	13.4	15.3	13.6	0.4	0.2	42.0

「主に配偶者・パートナー（男性）」上位5件

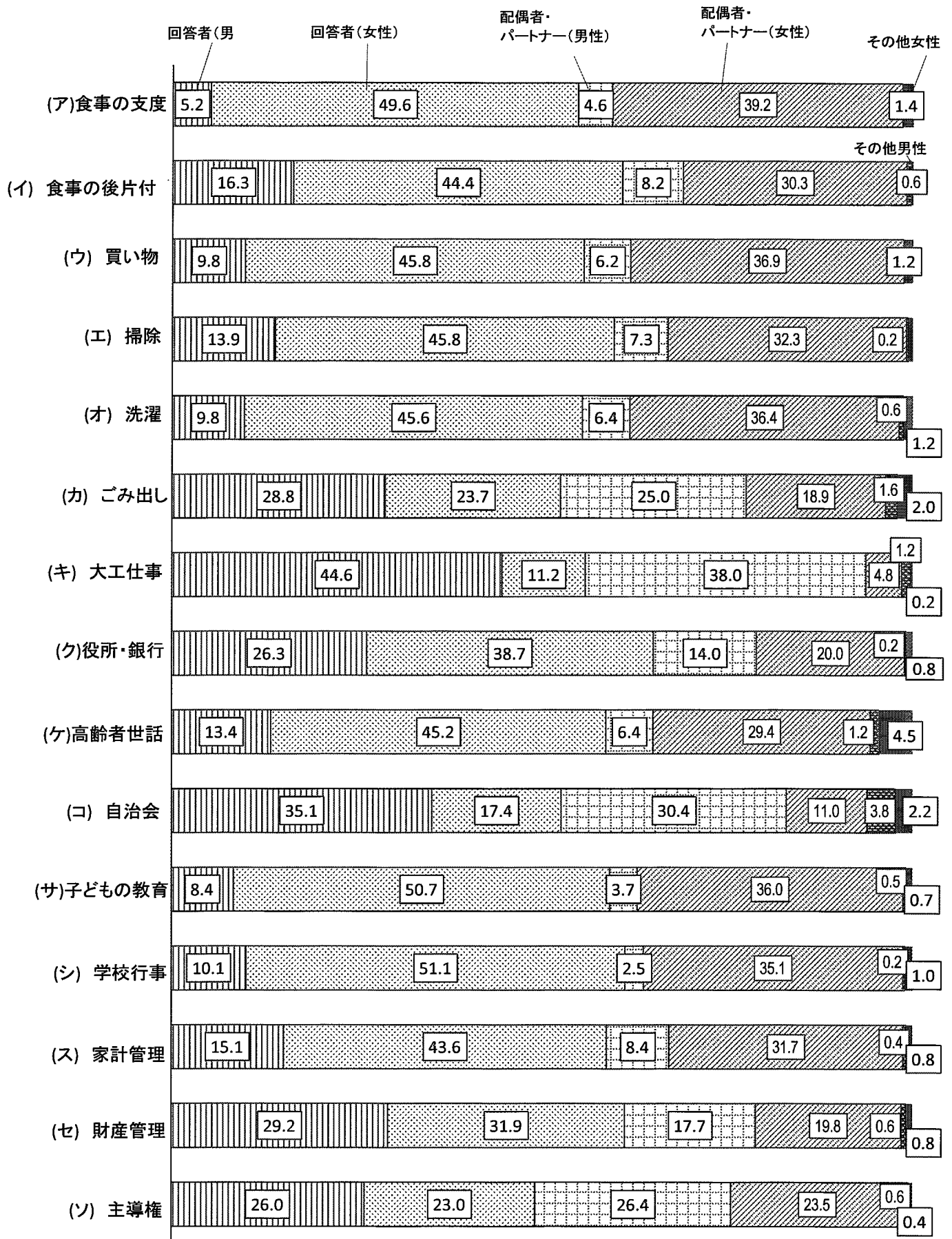
①大工仕事や電気製品の管理	38.0
②町内会や自治会の出席	30.4
③家庭内での主導権	26.4
④ごみ出し	25.0
⑤財産・資産の管理	17.7

「主に配偶者・パートナー（女性）」上位5件

①食事の支度	39.2
②買い物	36.9
③洗濯	36.4
④子供の教育	36.0
⑤学校行事への参加	35.1

※回答率は「無回答」を除いて再計算したもの

※ 回答率は「無回答」を除いて構成比を再計算したもの。
 表中の数値は回答率（％）



※グラフ中の項目名は略記したもの

問5-1 問5の項目（ア）～（ソ）までの仕事のうち自分が「もっと分担してもよい」と思うものを3つまで選んでください。

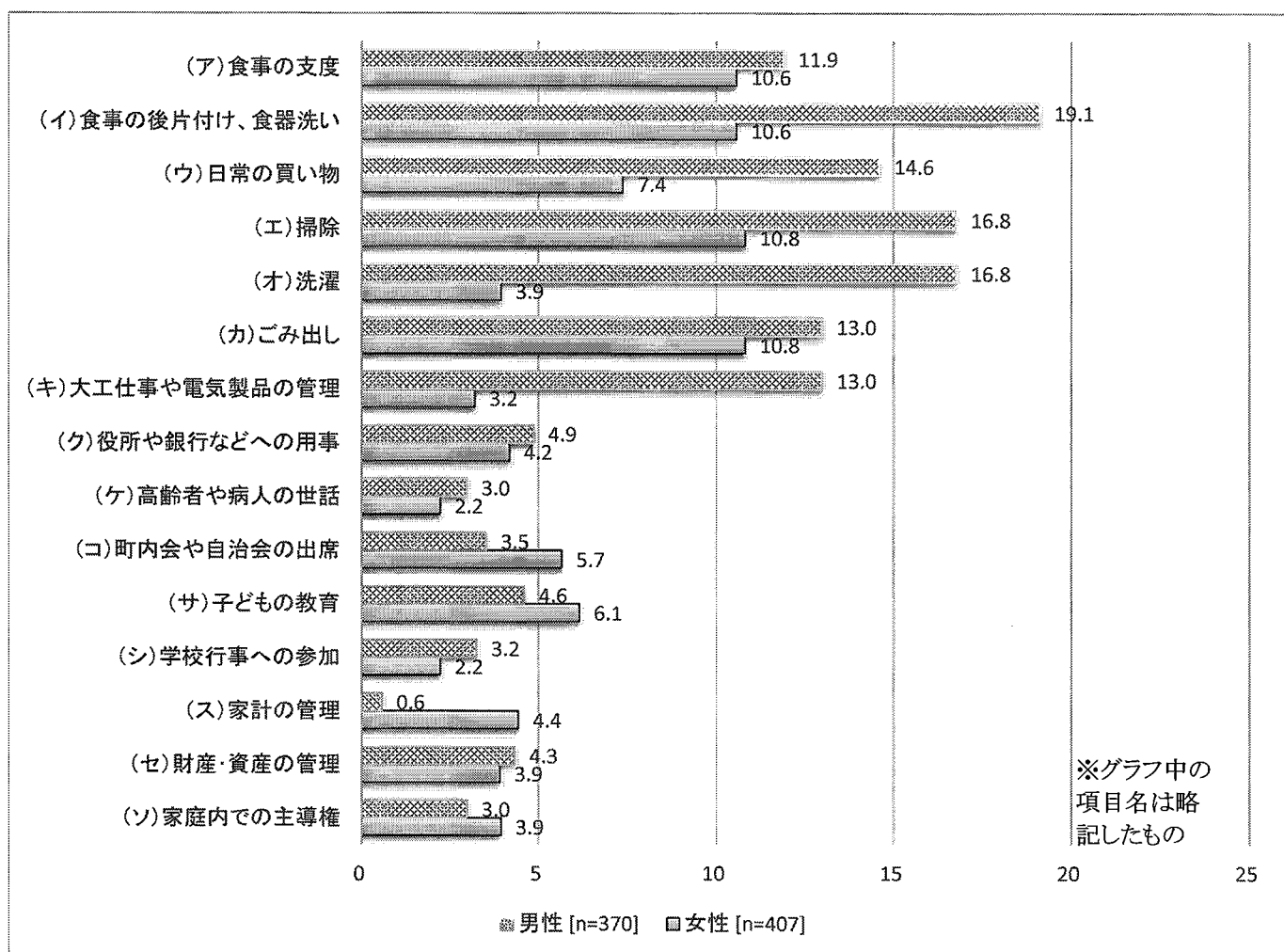
表中の数値は回答率(%)	男性 [n=370]	女性 [n=407]
(ア) 食事の支度	11.9	10.6
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	19.1	10.6
(ウ) 日常の買い物	14.6	7.4
(エ) 掃除	16.8	10.8
(オ) 洗濯	16.8	3.9
(カ) ごみ出し	13.0	10.8
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	13.0	3.2
(ク) 役所や銀行などへの用事	4.9	4.2
(ケ) 高齢者や病人の世話	3.0	2.2
(コ) 町内会や自治会の出席	3.5	5.7
(サ) 子どもの教育	4.6	6.1
(シ) 学校行事への参加	3.2	2.2
(ス) 家計の管理	0.6	4.4
(セ) 財産・資産の管理	4.3	3.9
(ソ) 家庭内での主導権	3.0	3.9

男性上位5件

①食事片付け食器洗い	19.1%
②掃除	16.8%
②洗濯	16.8%
④日常の買い物	14.6%
⑤ごみ出し	13.0%
⑤大工仕事電気製品管理	13.0%

女性上位5件

①掃除	10.8%
①ごみ出し	10.8%
③食事の支度	10.6%
③食事片付け食器洗い	10.6%
⑤日常の買い物	7.4%



問5-2 問5の項目（ア）～（ソ）までの仕事のうち配偶者・パートナーに
「もっと分担してほしい」と思うものを3つまで選んでください。

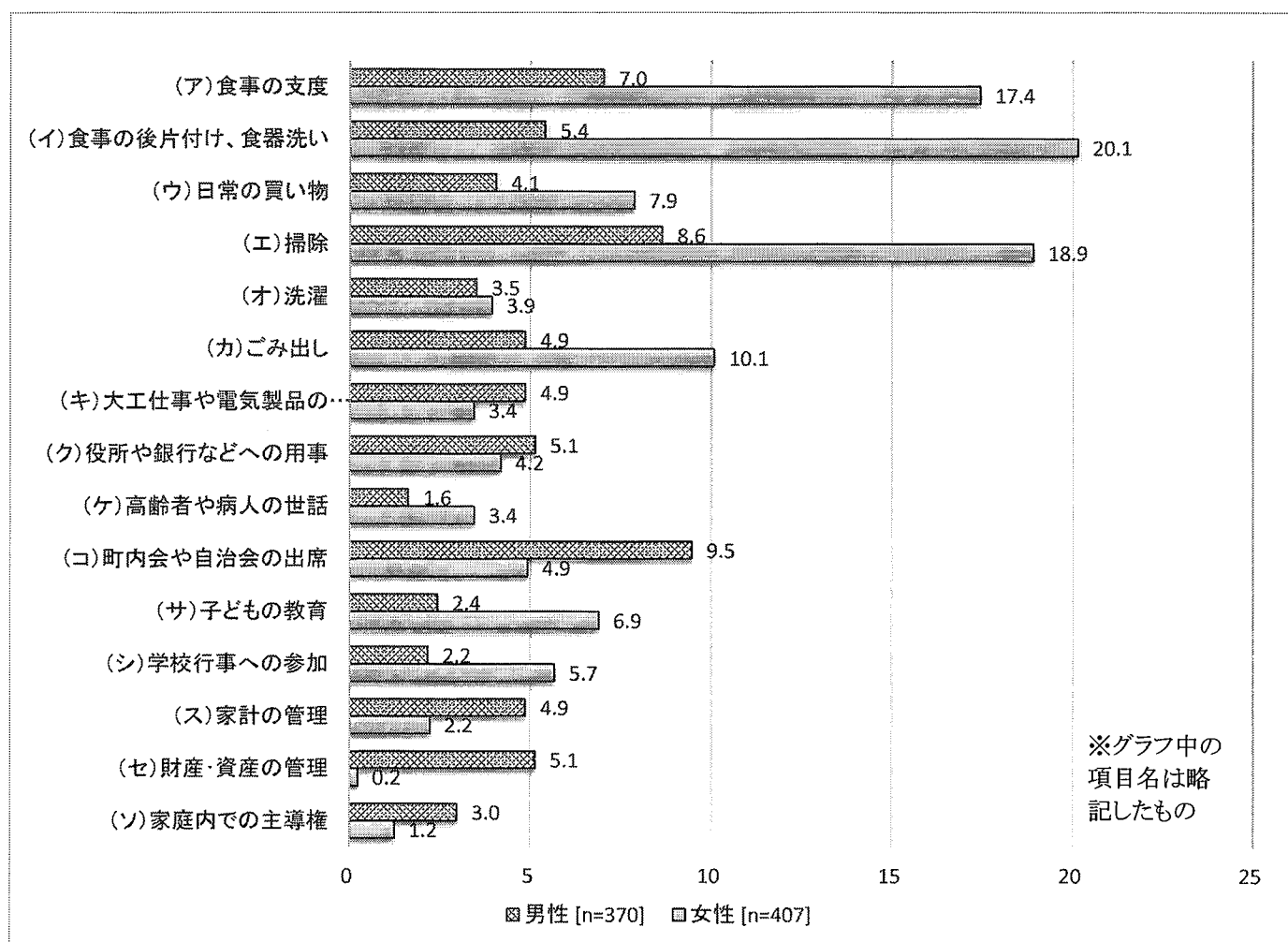
表中の数値は回答率(%)	男性 [n=370]	女性 [n=407]
(ア) 食事の支度	7.0	17.4
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	5.4	20.1
(ウ) 日常の買い物	4.1	7.9
(エ) 掃除	8.6	18.9
(オ) 洗濯	3.5	3.9
(カ) ごみ出し	4.9	10.1
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	4.9	3.4
(ク) 役所や銀行などへの用事	5.1	4.2
(ケ) 高齢者や病人の世話	1.6	3.4
(コ) 町内会や自治会の出席	9.5	4.9
(サ) 子どもの教育	2.4	6.9
(シ) 学校行事への参加	2.2	5.7
(ス) 家計の管理	4.9	2.2
(セ) 財産・資産の管理	5.1	0.2
(ソ) 家庭内での主導権	3.0	1.2

男性上位5件

①町内会や自治会出席	9.5%
②掃除	8.6%
③食事の支度	7.0%
④食事片付食器洗い	5.4%
⑤役所や銀行の用事	5.1%
⑤財産・資産の管理	5.1%

女性上位5件

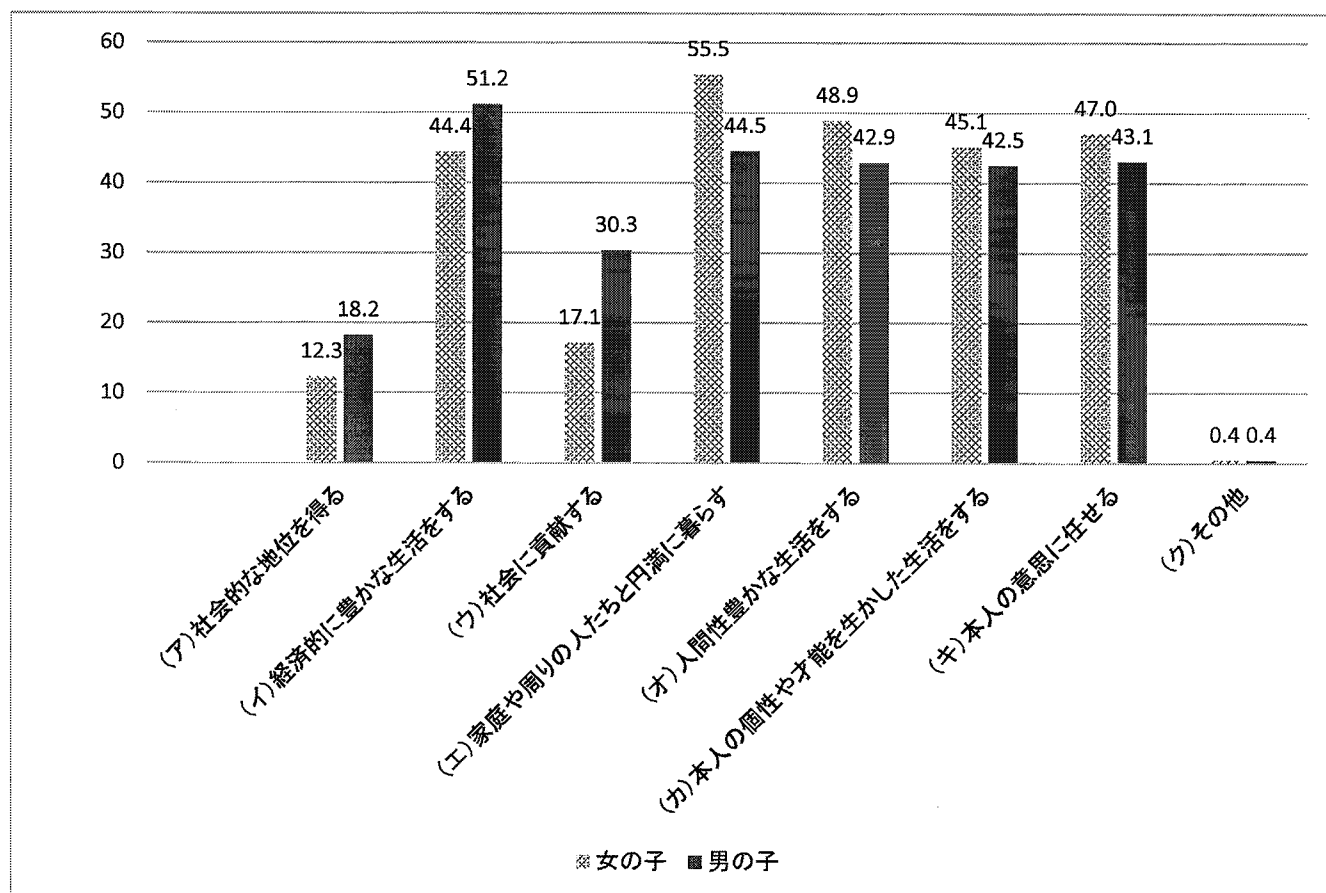
①食事片付食器洗い	20.1%
②掃除	18.9%
③食事の支度	17.4%
④ごみ出し	10.1%
⑤日常の買い物	7.9%



3.6 理想の子どもの将来像

問6 これからの時代を生きていく子どもたちには、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。（〇は女の子・男の子それぞれ3つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)	女の子	男の子
(ア) 社会的な地位を得る	12.3	18.2
(イ) 経済的に豊かな生活をする	44.4	51.2
(ウ) 社会に貢献する	17.1	30.3
(エ) 家庭や周りの人たちと円満に暮らす	55.5	44.5
(オ) 人間性豊かな生活をする	48.9	42.9
(カ) 本人の個性や才能を生かした生活をする	45.1	42.5
(キ) 本人の意思に任せる	47.0	43.1
(ク) その他	0.4	0.4



「女の子」上位5件	
①周りの人達と円満な生活	55.5%
②人間性豊かな生活	48.9%
③本人の意思に任せる	47.0%
④個性・才能を生かした生活	45.1%
⑤経済的に豊かな生活	44.4%

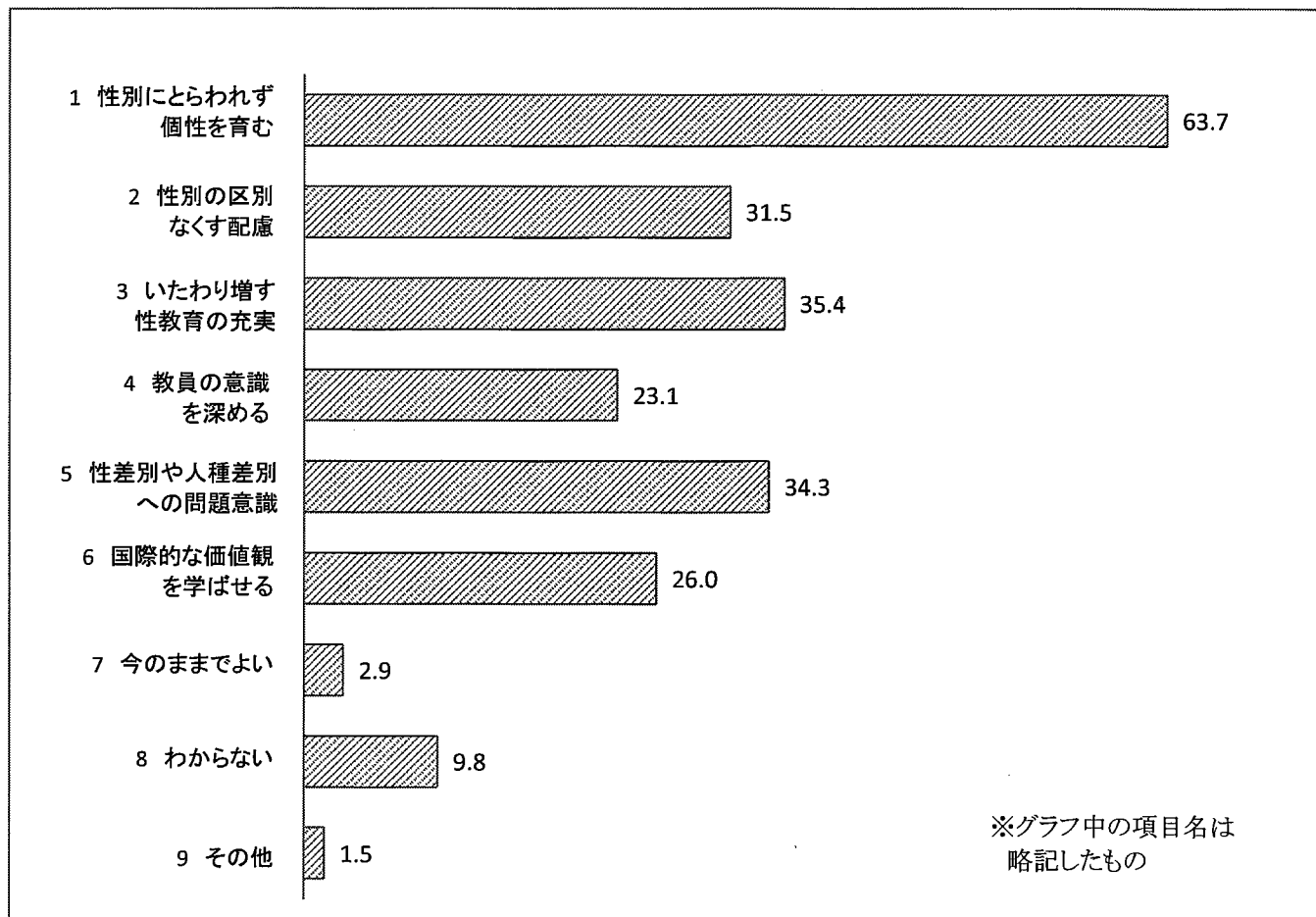
「男の子」上位5件	
①経済的に豊かな生活	51.2%
②周りの人達と円満な生活	44.5%
③本人の意思に任せる	43.1%
④人間性豊かな生活	42.9%
⑤個性・才能を生かした生活	42.5%

3.7 学校教育における男女共同参画の意識

問7 学校教育の中で男女共同参画の意識を深めるためには、何が大切だと思いますか。（〇は3つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 性別にとらわれることなく、一人ひとりの個性を育むような授業をする	63.7
2 生活指導や進路指導において、性別の区別をなくす配慮をする	31.5
3 相手へのいたわりや理解が増すような性教育を充実させる	35.4
4 男女共同参画に関する教員の意識を深める研修を行う	23.1
5 性差別や人種差別などに問題意識をもたせる	34.3
6 国際交流や交換留学を活発にし、他国の事例や価値観を学ばせる	26.0
7 今のままでよい	2.9
8 わからない	9.8
9 その他	1.5

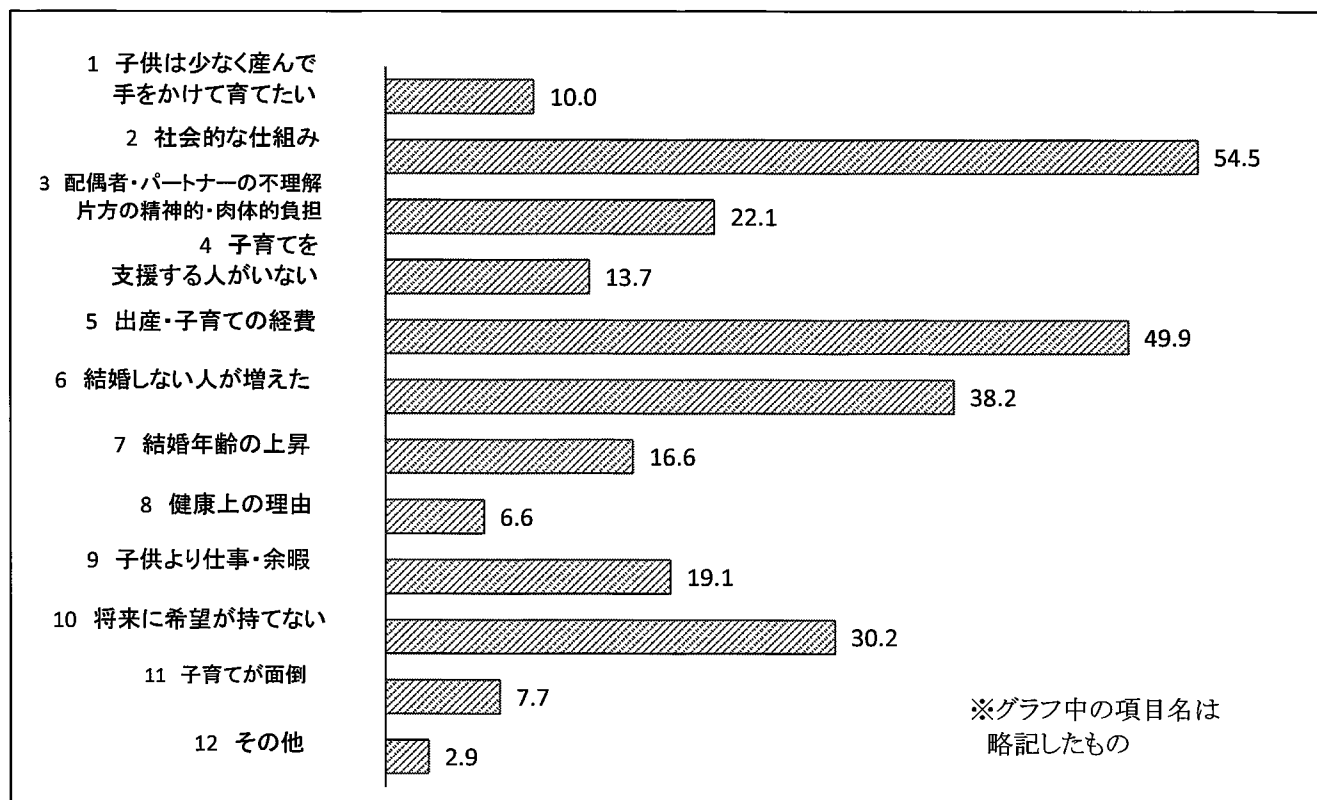


3.8 合計特殊出生率の低い原因

問8 女性が一生の間に産む子どもの数（合計特殊出生率）は令和4年（2022年）で1.26人となっています。あなたは、出生率が低い原因は何だと思いますか。（〇は3つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1	子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えた	10.0
2	出産・子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない	54.5
3	出産・子育てに対する配偶者・パートナーの理解・協力が足りず片方の精神的・肉体的負担が大きい	22.1
4	祖父母や隣近所など、保護者以外に出産・子育てを支援してくれる人がいない	13.7
5	住宅事情や家計が厳しく、出産・子育てに経費がかかりすぎる	49.9
6	結婚しない人やしたくてもできない人が増えた	38.2
7	結婚年齢が上昇した（晩婚化）	16.6
8	子どもを望んでいるができないなど、健康上の理由	6.6
9	子どもよりも仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた	19.1
10	将来に希望が持てない中、子どもを作りたくない	30.2
11	子育てが面倒で子どもを望まないという人が増えた	7.7
12	その他	2.9

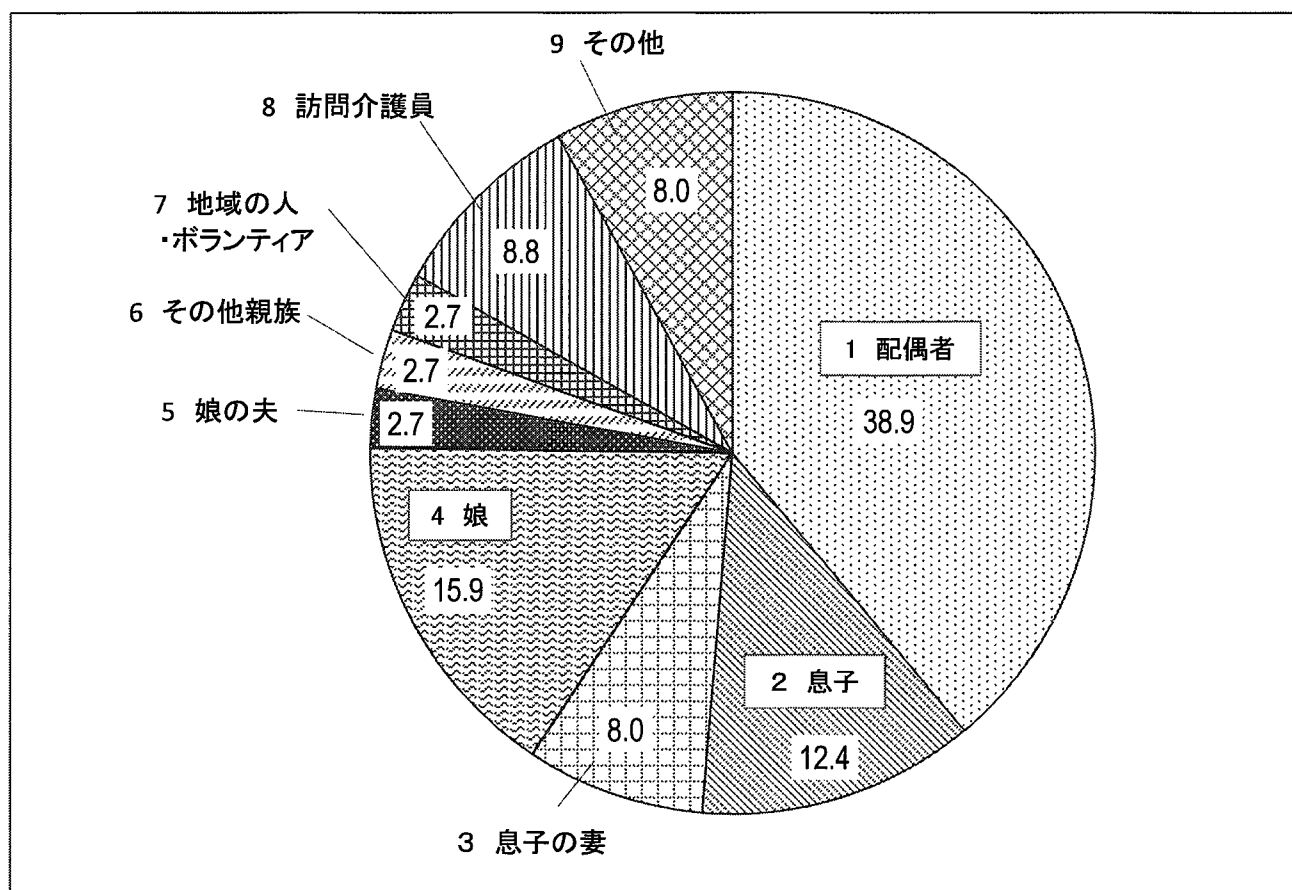


3.9 主な介護者

問9 主に介護しているのは、要介護者から見てどの関係に当たる方ですか。（○は1つだけ）

[n=113] 表中の数値は回答率(%)

1 配偶者・パートナー	38.9
2 息子	12.4
3 息子の妻	8.0
4 娘	15.9
5 娘の夫	2.7
6 その他の親族	2.7
7 地域の人・ボランティア	2.7
8 訪問介護員（ホームヘルパー）	8.8
9 その他	8.0

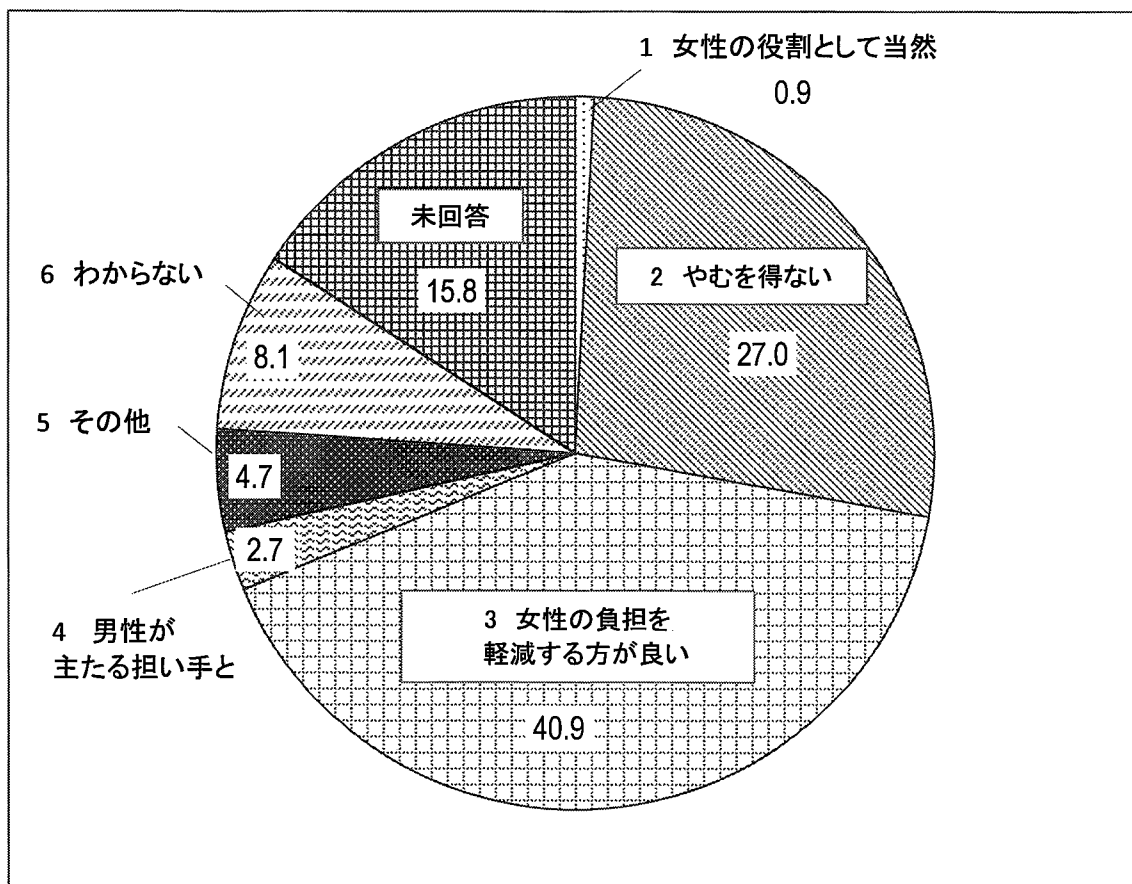


3.10 介護における女性の役割

問10 在宅での介護は、女性が主たる担い手となることが多いですが、このことについてどう思いますか。（○は1つだけ）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 女性の役割として当然だと思う	0.9
2 問題があるが、現実にはやむを得ない	27.0
3 女性の負担を軽減する方が良い	40.9
4 男性が主たる担い手となるべきだと思う	2.7
5 その他	4.7
6 わからない	8.1
無回答	15.8

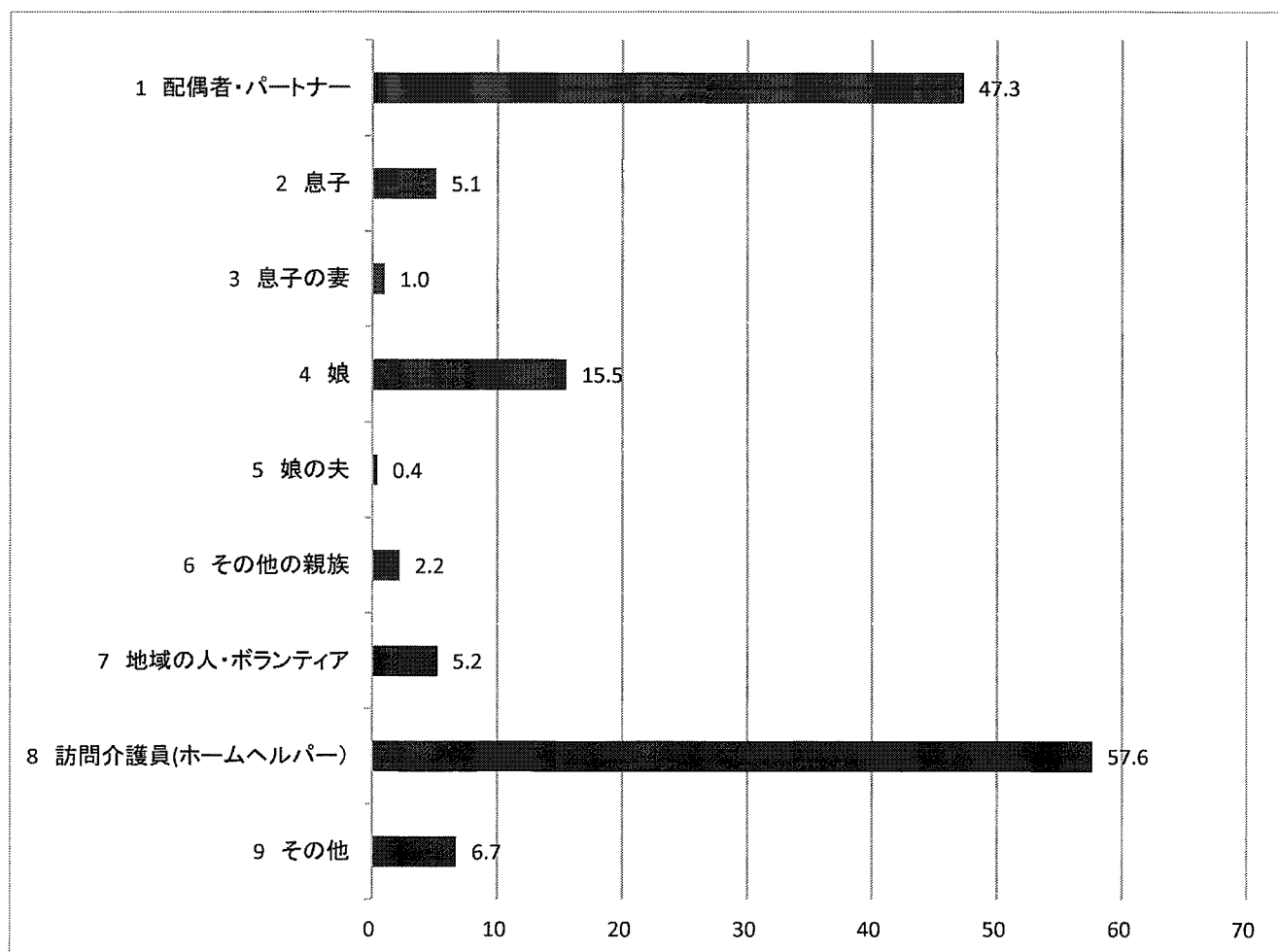


3.11 要介護状態になった場合の介護主体

問11 あなたは、自分が万一、介護が必要になったとき、誰に介護してほしいですか。（〇は2つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 配偶者・パートナー	47.3
2 息子	5.1
3 息子の妻	1.0
4 娘	15.5
5 娘の夫	0.4
6 その他の親族	2.2
7 地域の人・ボランティア	5.2
8 訪問介護員(ホームヘルパー)	57.6
9 その他	6.7

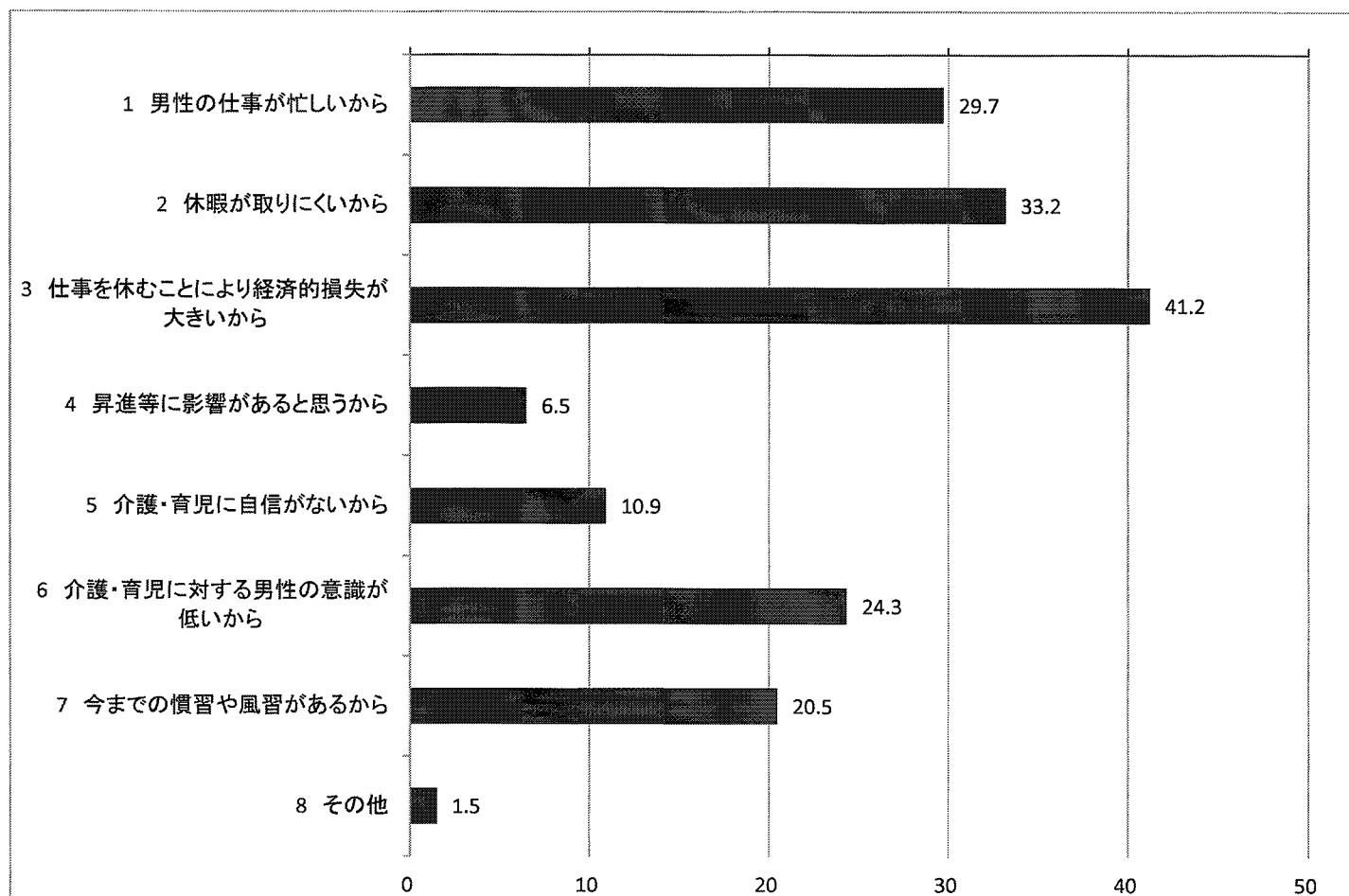


3.12 男性の育児や介護に関わる時間

問12 現在、男性が介護や育児に関わる時間が少ない状況にありますか、その理由は何だと思いますか。（○は2つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 男性の仕事が忙しいから	29.7
2 休暇が取りにくいから	33.2
3 仕事を休むことにより経済的損失が大きいから	41.2
4 昇進等に影響があると思うから	6.5
5 介護・育児に自信がないから	10.9
6 介護・育児に対する男性の意識が低いから	24.3
7 今までの慣習や風習があるから	20.5
8 その他	1.5

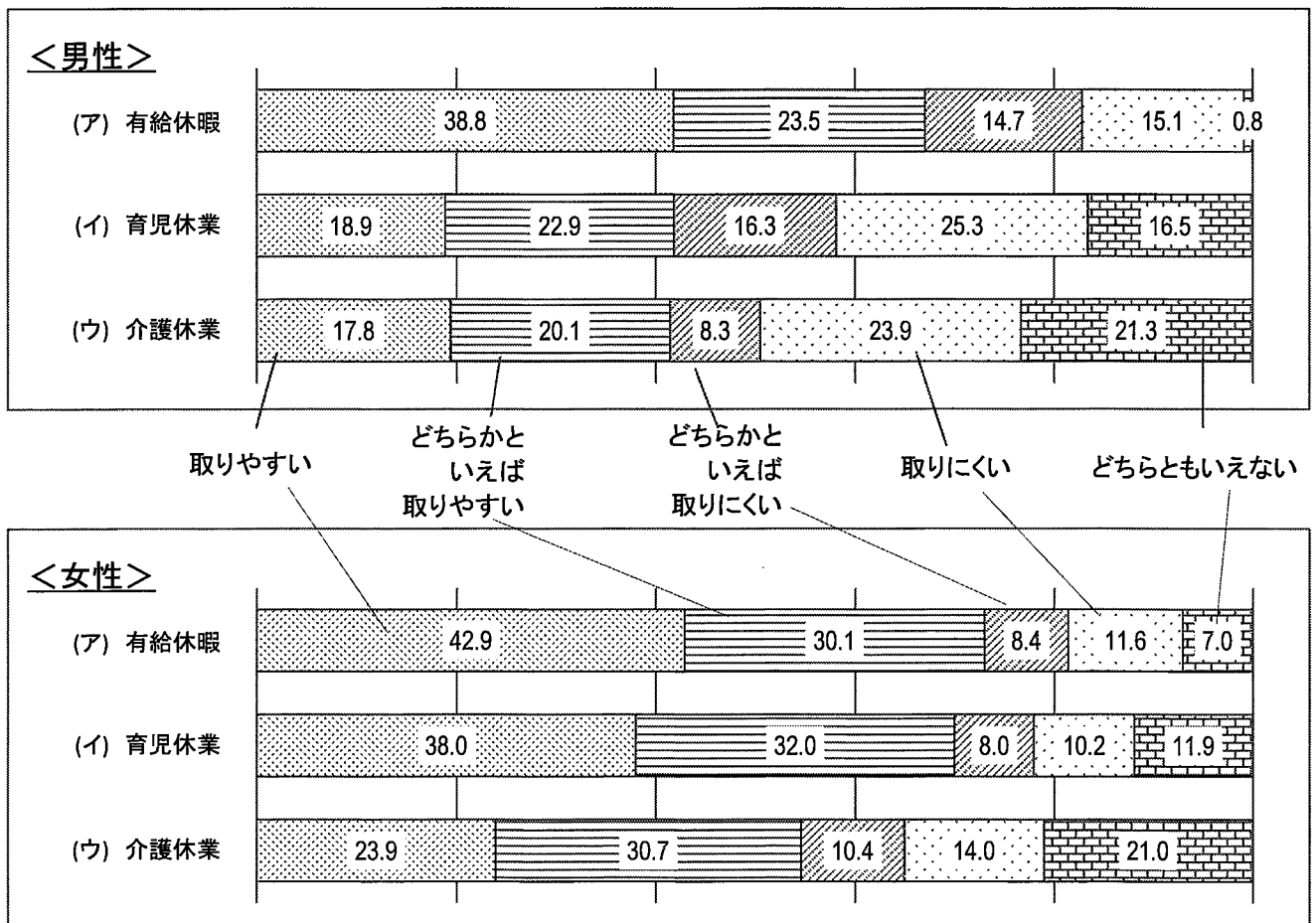


3.13 有給休暇や育児・介護休業等の利用しやすさ

問13 あなたの職場では、男性・女性それぞれについて有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。（○は各項目1つずつ）

※回答率は「該当しない」「無回答」を除いて構成比を再計算したもの。表中の数値は回答率(%)

		取りやすい	どちらかといえ ば取りやすい	どちらかといえ ば取りにくい	取りにくい	どちらとも いえない
男性	(ア)有給休暇 [n=430]	38.8	23.5	14.7	15.1	0.8
	(イ)育児休業 [n=423]	18.9	22.9	16.3	25.3	16.5
	(ウ)介護休業 [n=422]	17.8	20.1	8.3	23.9	21.3
女性	(ア)有給休暇 [N=415]	42.9	30.1	8.4	11.6	7.0
	(イ)育児休業 [n=413]	38.0	32.0	8.0	10.2	11.9
	(ウ)介護休業 [n=414]	23.9	30.7	10.4	14.0	21.0

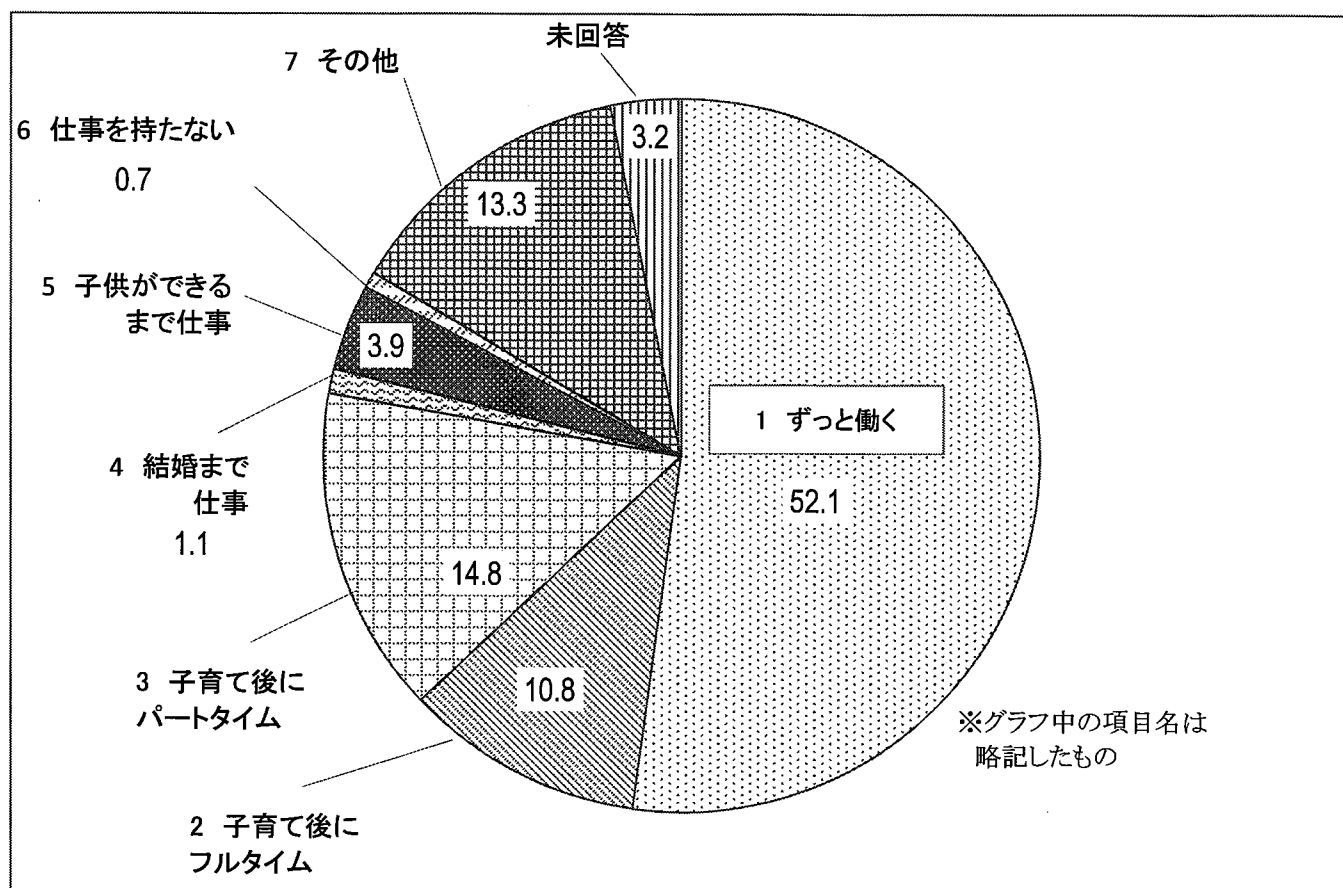


3.14 望ましい女性の働き方

問14 女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。
(○は1つだけ)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 結婚や出産、子育て中も、育児休業制度等を利用して仕事を続ける	52.1
2 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける	10.8
3 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける	14.8
4 結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事に就かない	1.1
5 子どもができるまで仕事をもち、その後は仕事に就かない	3.9
6 仕事を持たない	0.7
7 その他	13.3
8 無回答	3.2

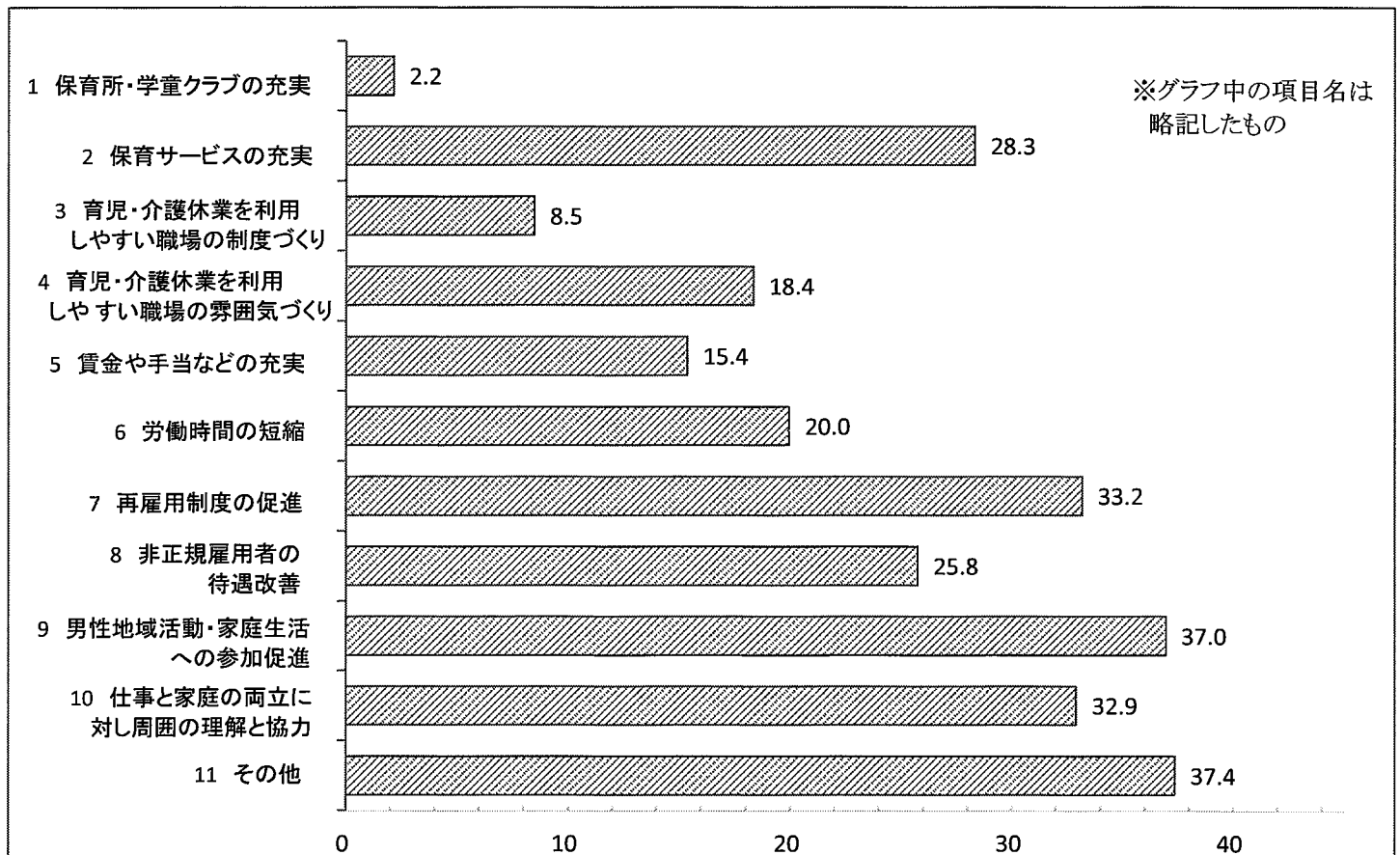


3.15 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと

問15 あなたは、性別に関わらず仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 保育所や放課後児童クラブ（学童保育）の充実	37.4
2 保育時間の延長、病児保育など保育サービスの充実	32.9
3 育児・介護休業制度の利用や有給休暇の取得がしやすい職場の制度づくり	37.0
4 育児・介護休業制度の利用や有給休暇の取得がしやすい職場の雰囲気づくり	25.8
5 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実	33.2
6 残業時間の削減や長期休暇の取得奨励など労働時間の短縮	20.0
7 結婚・育児・介護のために退職した職員の再雇用制度の促進	15.4
8 パートタイマーなど非正規雇用者の待遇改善	18.4
9 男性の地域社会活動や家庭生活への参加促進	8.5
10 男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること	28.3
11 その他	2.2

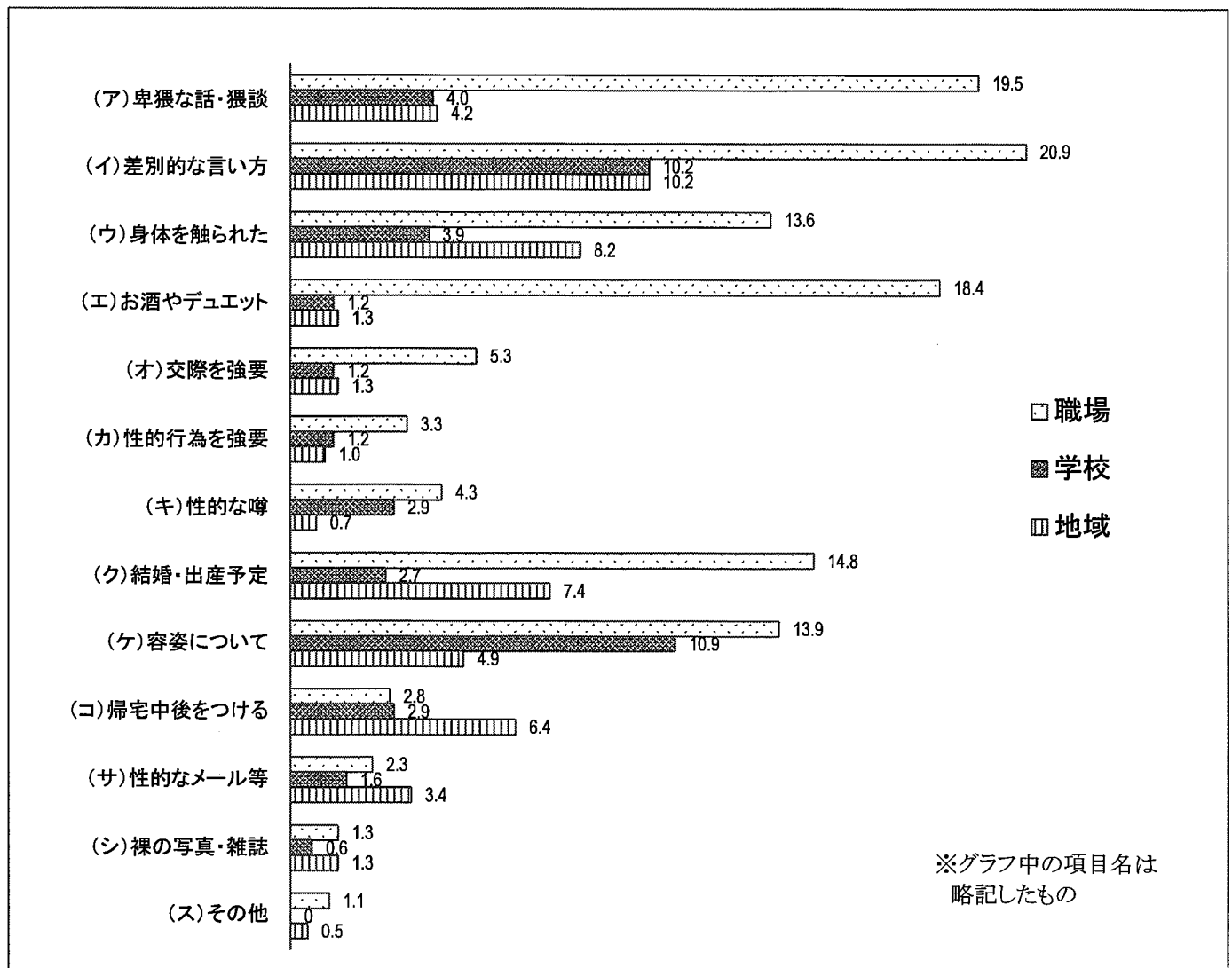


3.16 セクシャル・ハラスメントの現状

問16 これまでに、職場・学校・地域で次のような経験をしたことがありますか。
(○は職場、学校、地域ごとに当てはまるものすべて)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

	職場	学校	地域
(ア) いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	19.5	4.0	4.2
(イ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	20.9	10.2	10.2
(ウ) 異性に身体を触られた・じろじろ見られた	13.6	3.9	8.2
(エ) 宴会でお酒やデュエットを強要された	18.4	1.2	1.3
(オ) 交際を強要された	5.3	1.2	1.3
(カ) 性的な行為を強要された	3.3	1.2	1.0
(キ) 性的な噂をたてられた	4.3	2.9	0.7
(ク) 異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	14.8	2.7	7.4
(ケ) 自分の容姿について意見を言われた	13.9	10.9	4.9
(コ) 帰宅途中、後をつけられた	2.8	2.9	6.4
(サ) 性的な内容のメール(LINE等のSNSを含む)や手紙、電話を受けた	2.3	1.6	3.4
(シ) 裸の写真や卑猥な雑誌を目に付くところに貼られた・見せられた	1.3	0.6	1.3
(ス) その他	1.1	0	0.5

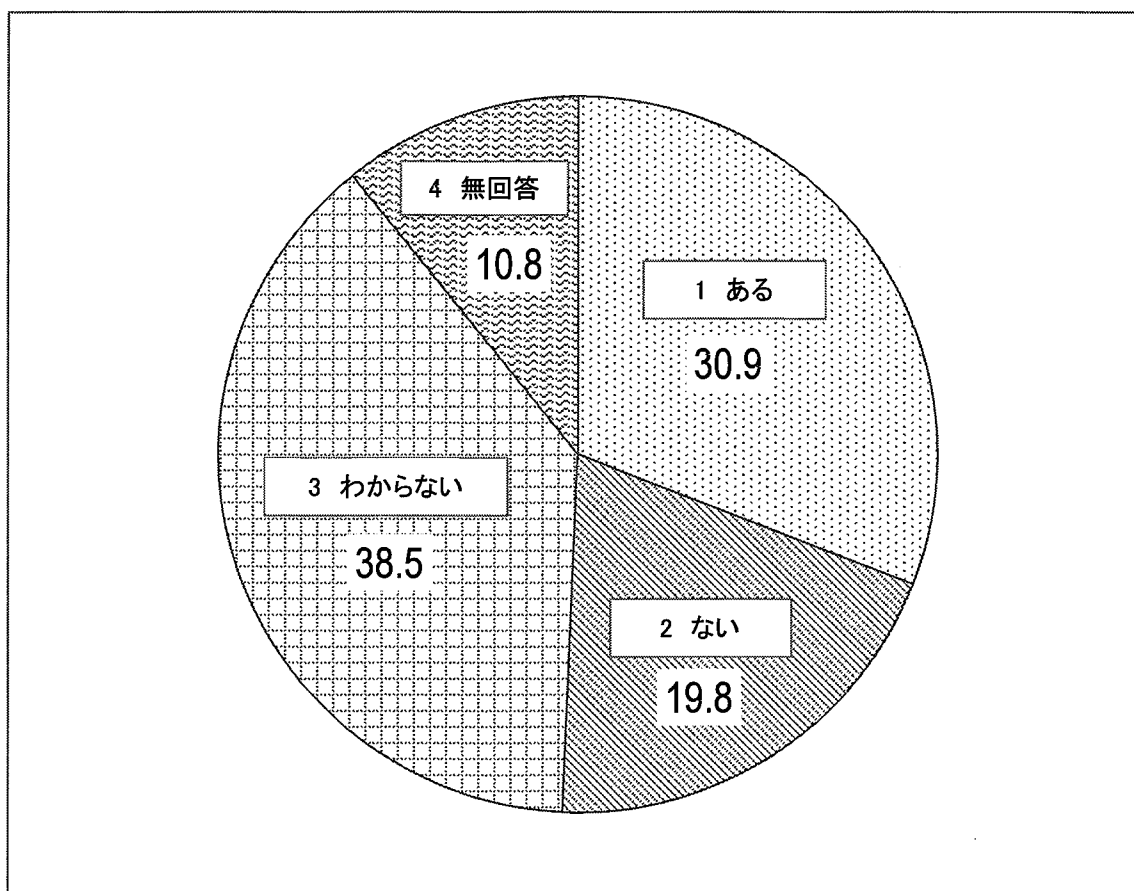


3.17 セクシャル・ハラスメントの相談窓口

問17 あなたの職場・学校・地域には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。（○は1つだけ）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 ある	30.9
2 ない	19.8
3 わからない	38.5
4 無回答	10.8

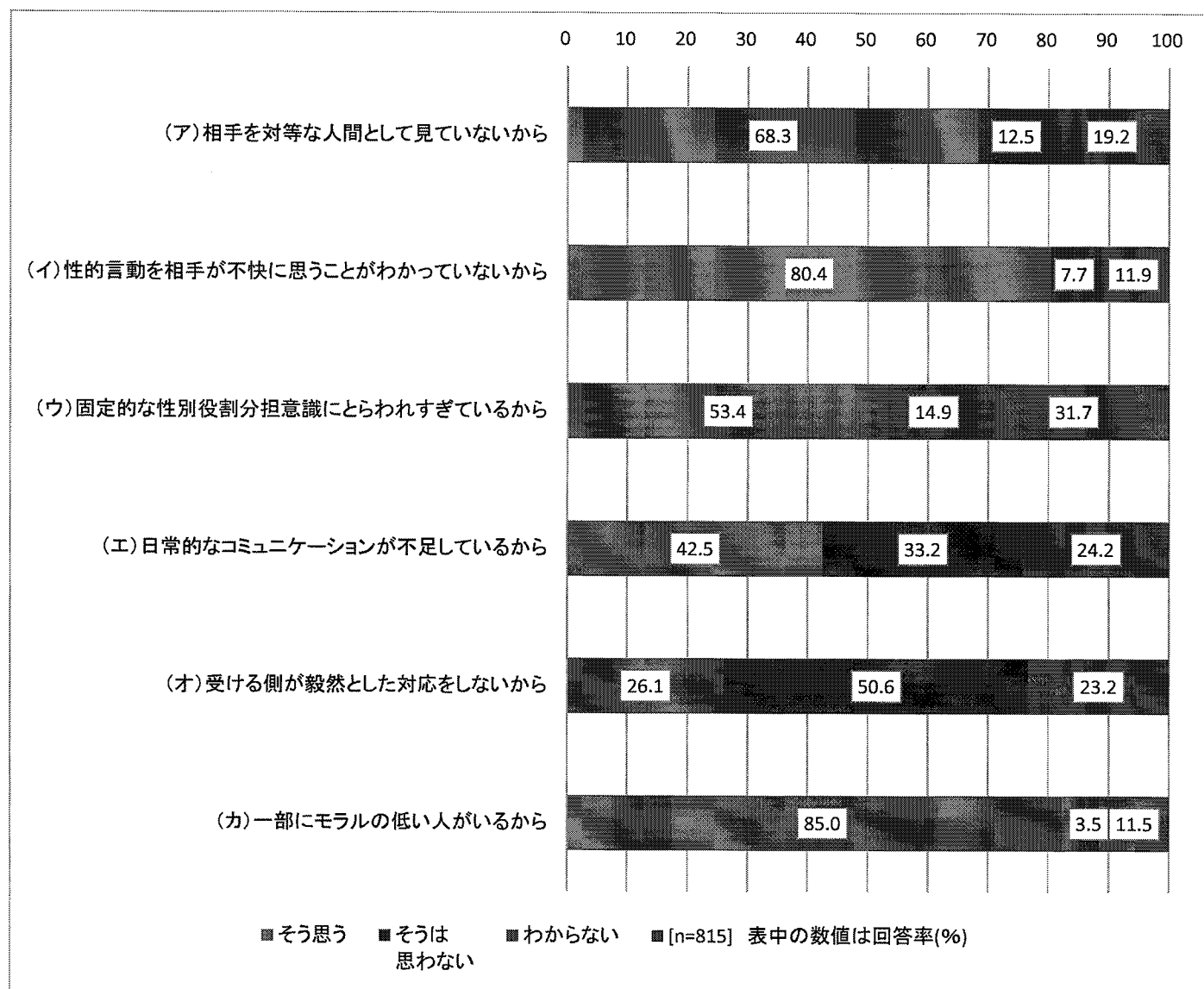


3.18 セクシャル・ハラスメントの原因

問18 セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思いますか。
(○は各項目1つずつ)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

	そう思う	そうは 思わない	わからない
(ア) 相手を対等な人間として見ていないから	68.3	12.5	19.2
(イ) 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから	80.4	7.7	11.9
(ウ) 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから	53.4	14.9	31.7
(エ) 日常的なコミュニケーションが不足しているから	42.5	33.2	24.2
(オ) 受ける側が毅然とした対応をしないから	26.1	50.6	23.2
(カ) 一部にモラルの低い人がいるから	85.0	3.5	11.5



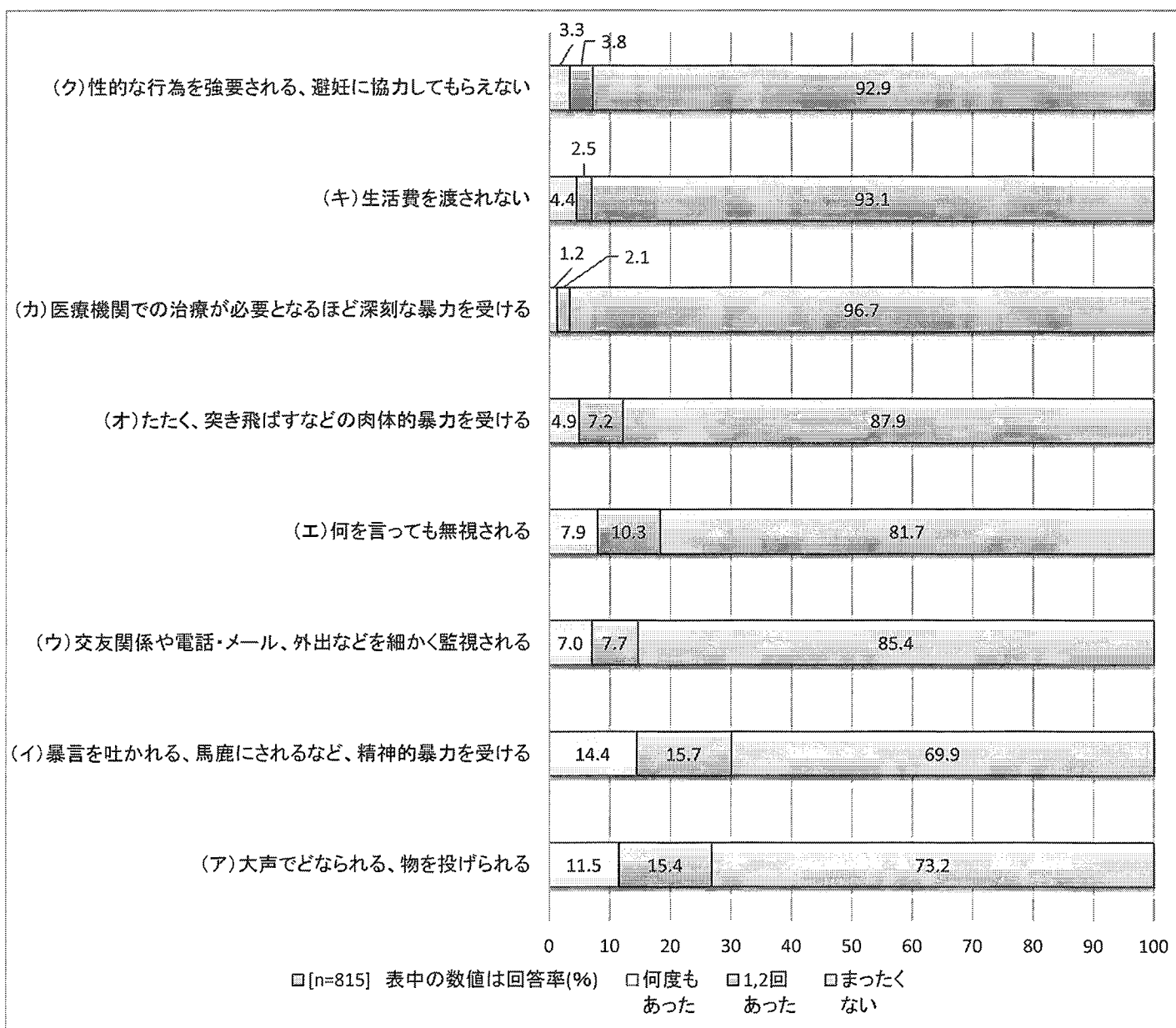
※回答率は「無回答」を除いて再計算したもの

3.19 ドメスティック・バイオレンスの現状

問19 今までに、配偶者・パートナー・恋人などの親密な関係にあるパートナーから次のようなことを受けたことがありますか（○は各項目1つずつ）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

	何度もあった	1,2回あった	まったくない	無回答
(ア) 大声でどなられる、物を投げられる	10.2	13.6	64.9	11.3
(イ) 暴言を吐かれる、馬鹿にされるなど、精神的暴力を受ける	12.8	13.9	62.0	11.4
(ウ) 交友関係や電話・メール、外出などを細かく監視される	6.1	6.7	75.2	11.9
(エ) 何を言っても無視される	7.0	9.1	71.9	12.0
(オ) たたく、突き飛ばすなどの肉体的暴力を受ける	4.3	6.4	77.4	11.9
(カ) 医療機関での治療が必要となるほど深刻な暴力を受ける	1.1	1.8	85.5	11.5
(キ) 生活費を渡されない	3.9	2.2	82.5	11.4
(ク) 性的な行為を強要される、避妊に協力してもらえない	2.9	3.3	81.7	12.0



問19-1 これまでに、問19. で挙げたような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。（○は1つだけ）

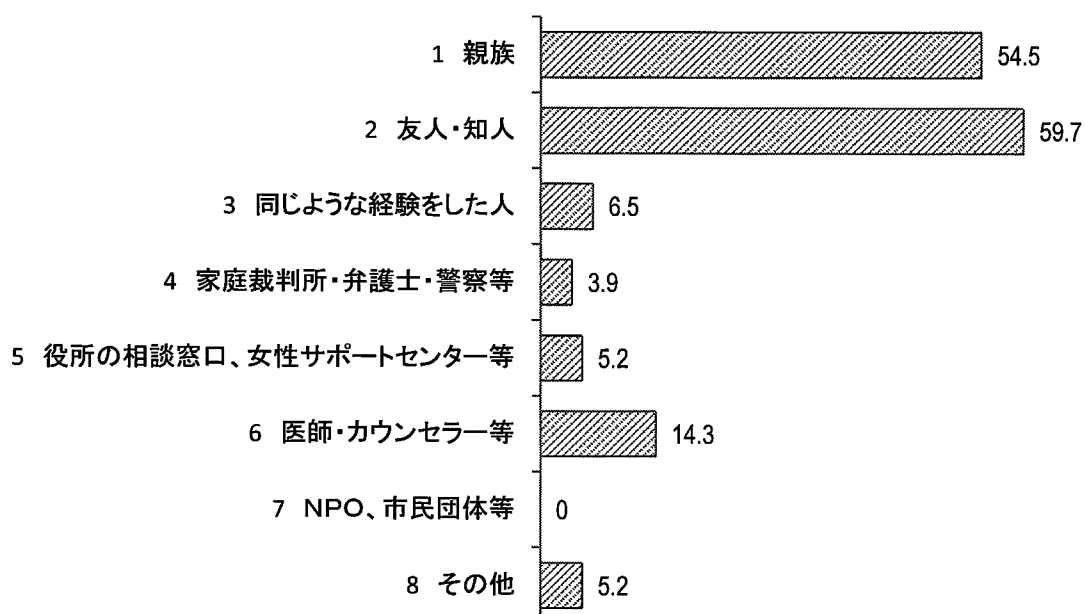
[n=305] 表中の数値は回答率(%)

1 相談した	25.2
2 相談したかったが、しなかった	11.8
3 相談しようとは思わなかった	63.0

問19-2 実際に、誰に（どこに）相談しましたか。
（○は当てはまるものすべて）

[n=77] 表中の数値は回答率(%)

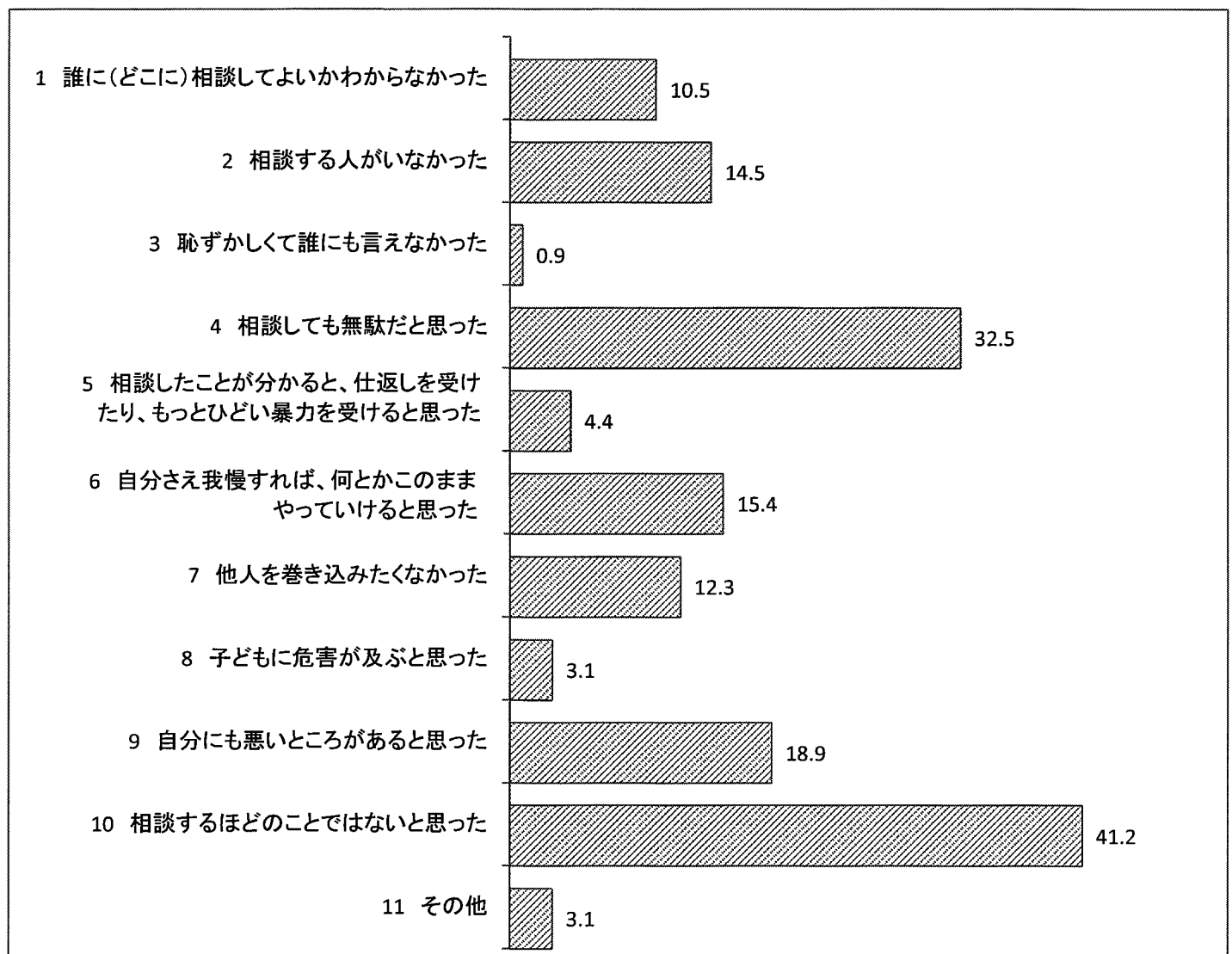
1 親族	54.5
2 友人・知人	59.7
3 同じような経験をした人	6.5
4 家庭裁判所・弁護士・警察等	3.9
5 役所の相談窓口、女性サポートセンター等	5.2
6 医師・カウンセラー等	14.3
7 NPO、市民団体等	0
8 その他	5.2



問19-3 誰（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
（○は当てはまるものすべて）

[n=228] 表中の数値は回答率(%)

1 誰に（どこに）相談してよいかわからなかった	10.5
2 相談する人がいなかった	14.5
3 恥ずかしくて誰にも言えなかった	0.9
4 相談しても無駄だと思った	32.5
5 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	4.4
6 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った	15.4
7 他人を巻き込みたくなかった	12.3
8 子どもに危害が及ぶと思った	3.1
9 自分にも悪いところがあると思った	18.9
10 相談するほどのことではないと思った	41.2
11 その他	3.1

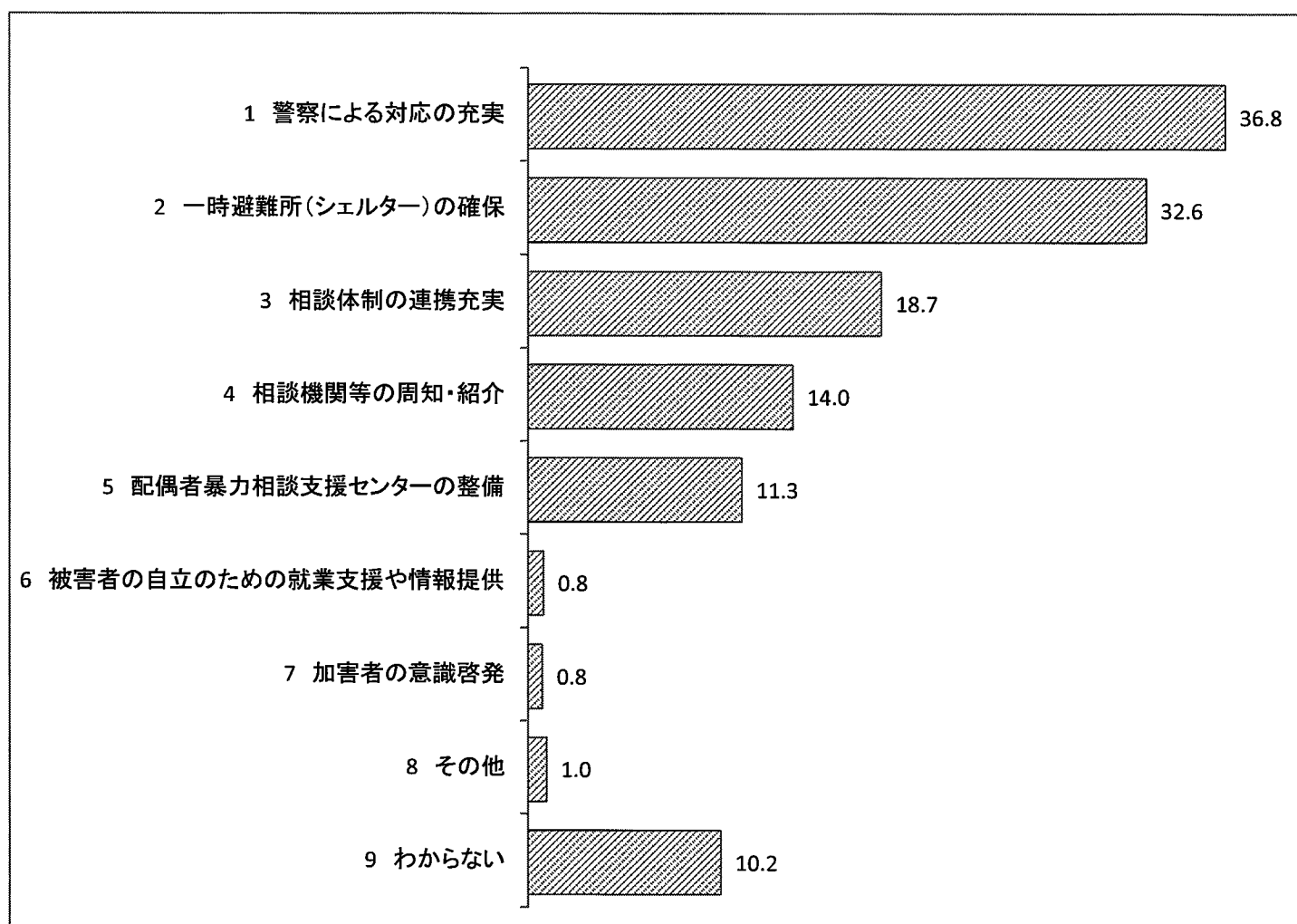


3.20 ドメスティック・バイオレンスへの対応

問20 夫・妻・恋人などの親密な関係にあるパートナーからの暴力について、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか(○は2つまで)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

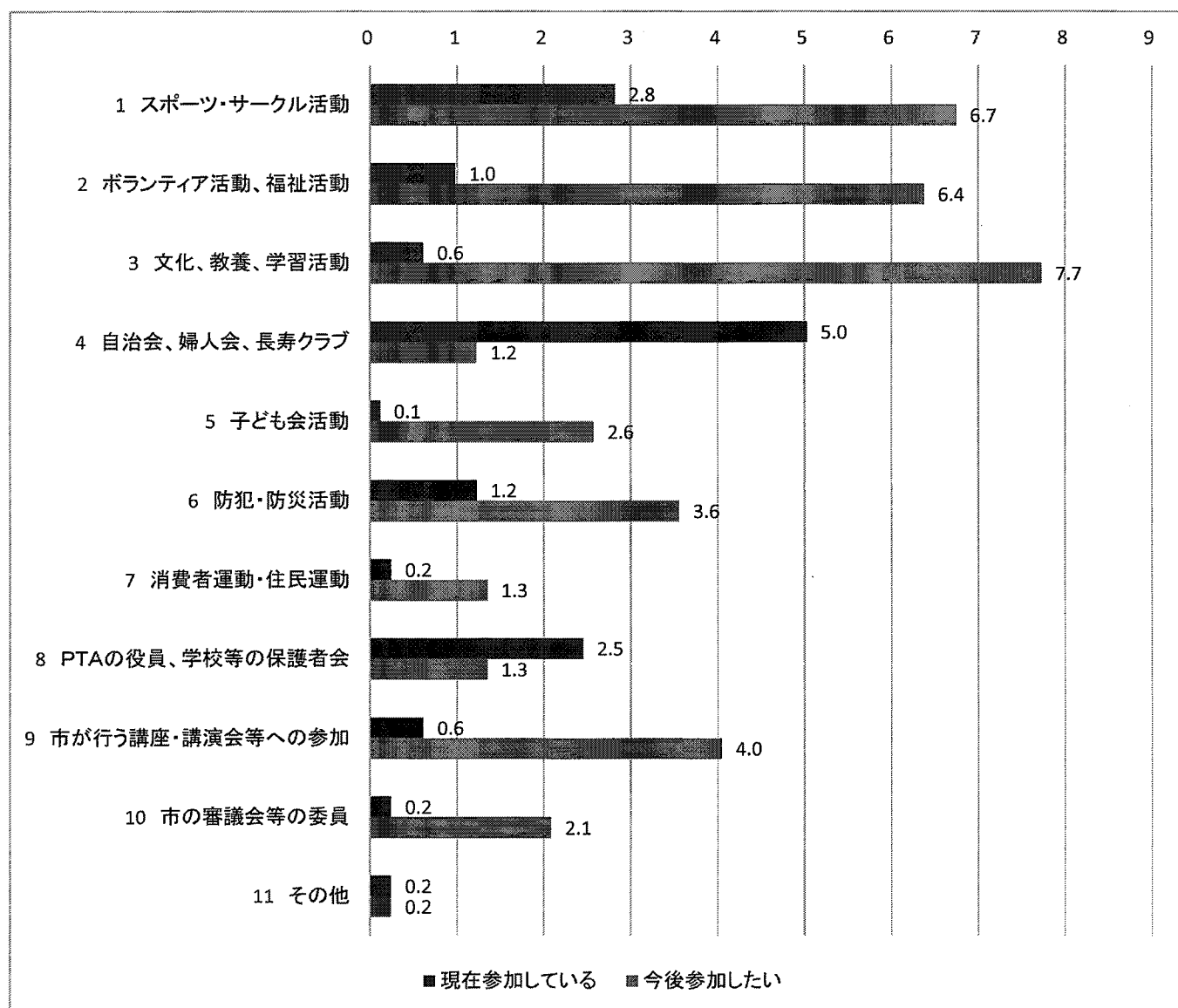
1 警察による対応の充実	36.8
2 一時避難所（シェルター）の確保	32.6
3 相談体制の連携充実	18.7
4 相談機関等の周知・紹介	14.0
5 配偶者暴力相談支援センターの整備	11.3
6 被害者の自立のための就業支援や情報提供	0.8
7 加害者の意識啓発	0.8
8 その他	1.0
9 わからない	10.2



3.21 地域活動への参加状況

問21 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」、「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。（○は当てはまるものすべて）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)		現在参加している	今後参加したい
1	スポーツ・サークル活動	2.8	6.7
2	ボランティア活動、福祉活動	1.0	6.4
3	文化、教養、学習活動	0.6	7.7
4	自治会、婦人会、長寿クラブ	5.0	1.2
5	子ども会活動	0.1	2.6
6	防犯・防災活動	1.2	3.6
7	消費者運動・住民運動	0.2	1.3
8	PTAの役員、学校等の保護者会	2.5	1.3
9	市が行う講座・講演会等への参加	0.6	4.0
10	市の審議会等の委員	0.2	2.1
11	その他	0.2	0.2

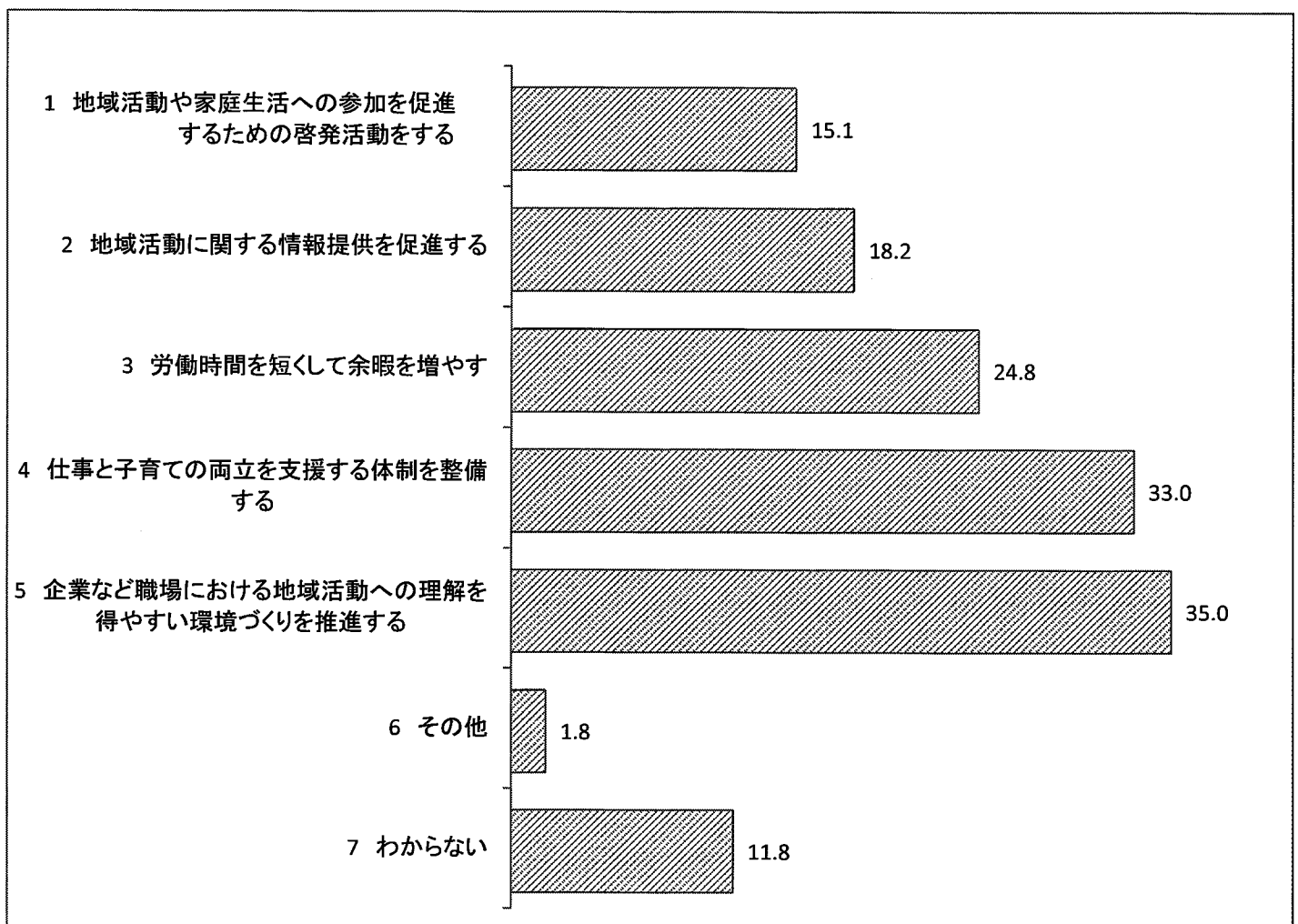


3.22 男性の地域活動・家庭生活への参加促進

問22 これまで男性は、地域活動や家庭生活への参加が比較的少なかったと言われています。地域活動や家庭生活への男性の参加を促進するためには、何が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 地域活動や家計生活への参加を促進するための啓発活動をする	15.1
2 地域活動に関する情報提供を促進する	18.2
3 労働時間を短くして余暇を増やす	24.8
4 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する	33.0
5 企業など職場における地域活動への理解を得やすい環境づくりを推進する	35.0
6 その他	1.8
7 わからない	11.8

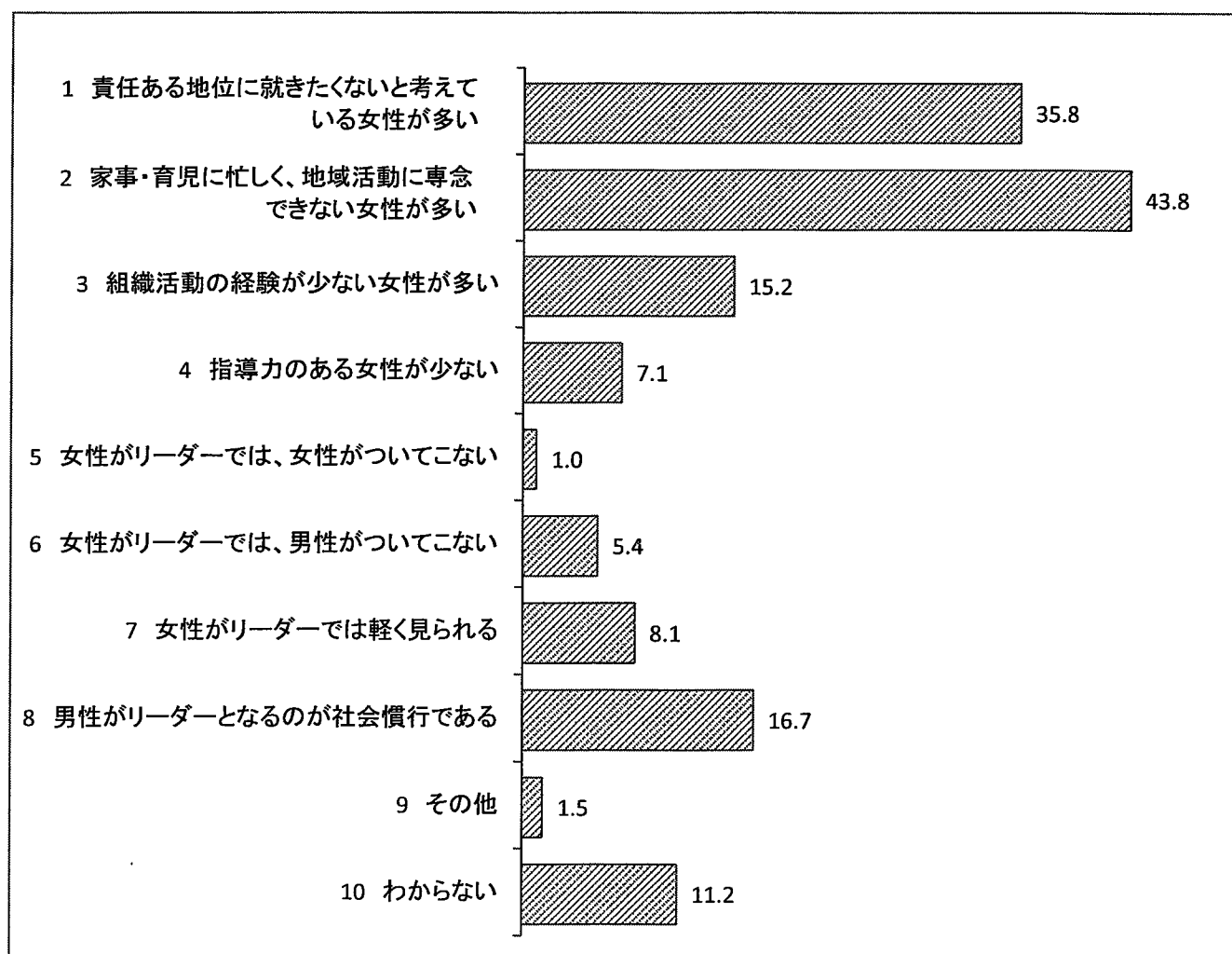


3.23 女性リーダーが少ない理由

問23 自治会やPTAなどの活動では、会長や副会長などのリーダーに女性が少ない傾向にありますが、その原因は何だと思いますか。（〇は2つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 責任のある地位につきたくないと考えている女性が多い	35.8
2 家事・育児に忙しく、地域活動に専念できない女性が多い	43.8
3 組織活動の経験が少ない女性が多い	15.2
4 指導力のある女性が少ない	7.1
5 女性がリーダーでは、女性がついてこない	1.0
6 女性がリーダーでは、男性がついてこない	5.4
7 女性がリーダーでは軽く見られる	8.1
8 男性がリーダーとなるのが社会慣行である	16.7
9 その他	1.5
10 わからない	11.2

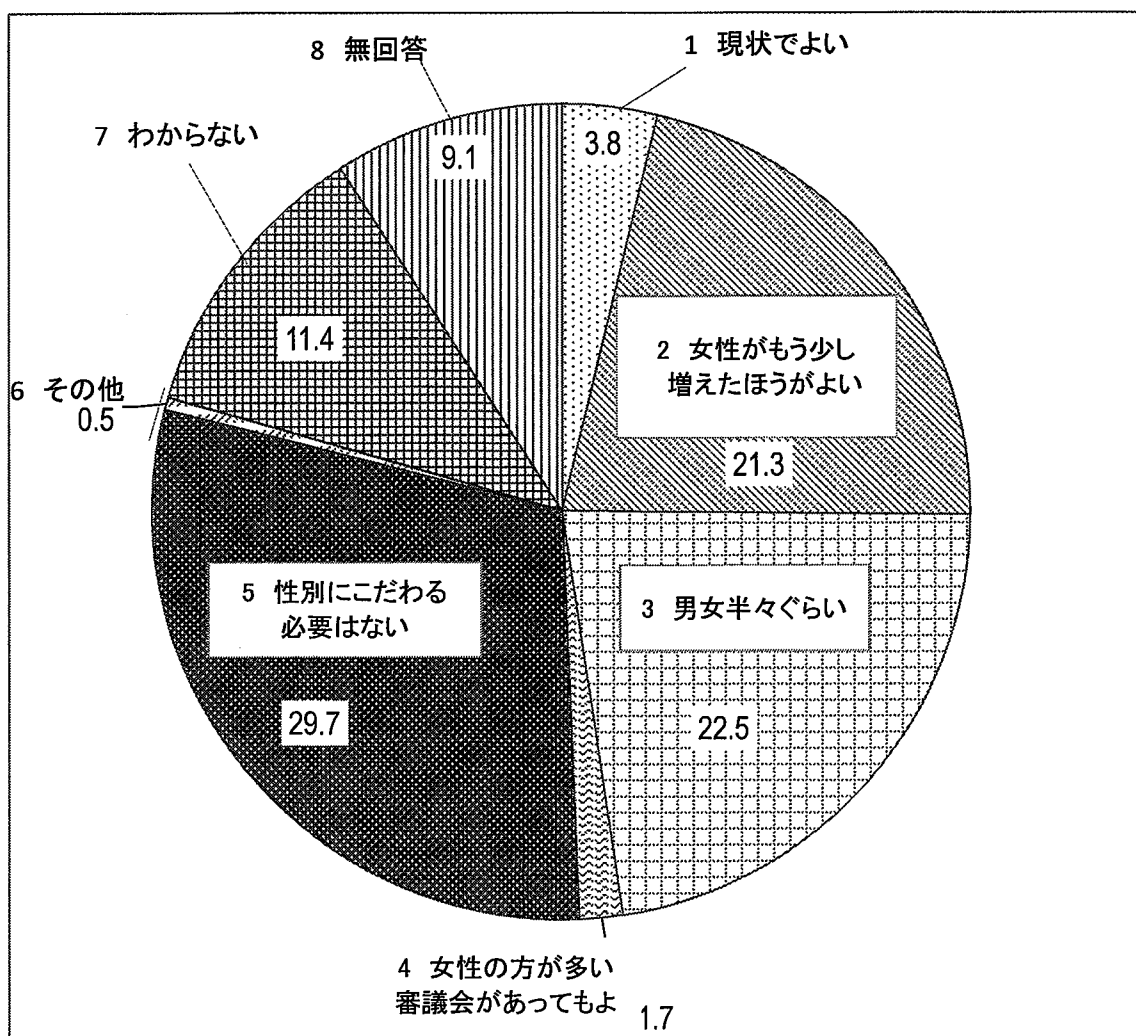


3.24 審議会等への女性委員の登用状況

問24 茂原市では、審議会等の女性委員の登用率を30%まで引き上げるという数値目標を設定していますが、令和5年度23.7%はとなっています。このことについてあなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 現状でよい	3.8
2 女性がもう少し増えたほうがよい	21.3
3 男女半々ぐらいまで増えたほうがよい	22.5
4 女性のほうが多い審議会があってもよい	1.7
5 性別にこだわる必要はない	29.7
6 その他	0.5
7 わからない	11.4
8 無回答	9.1

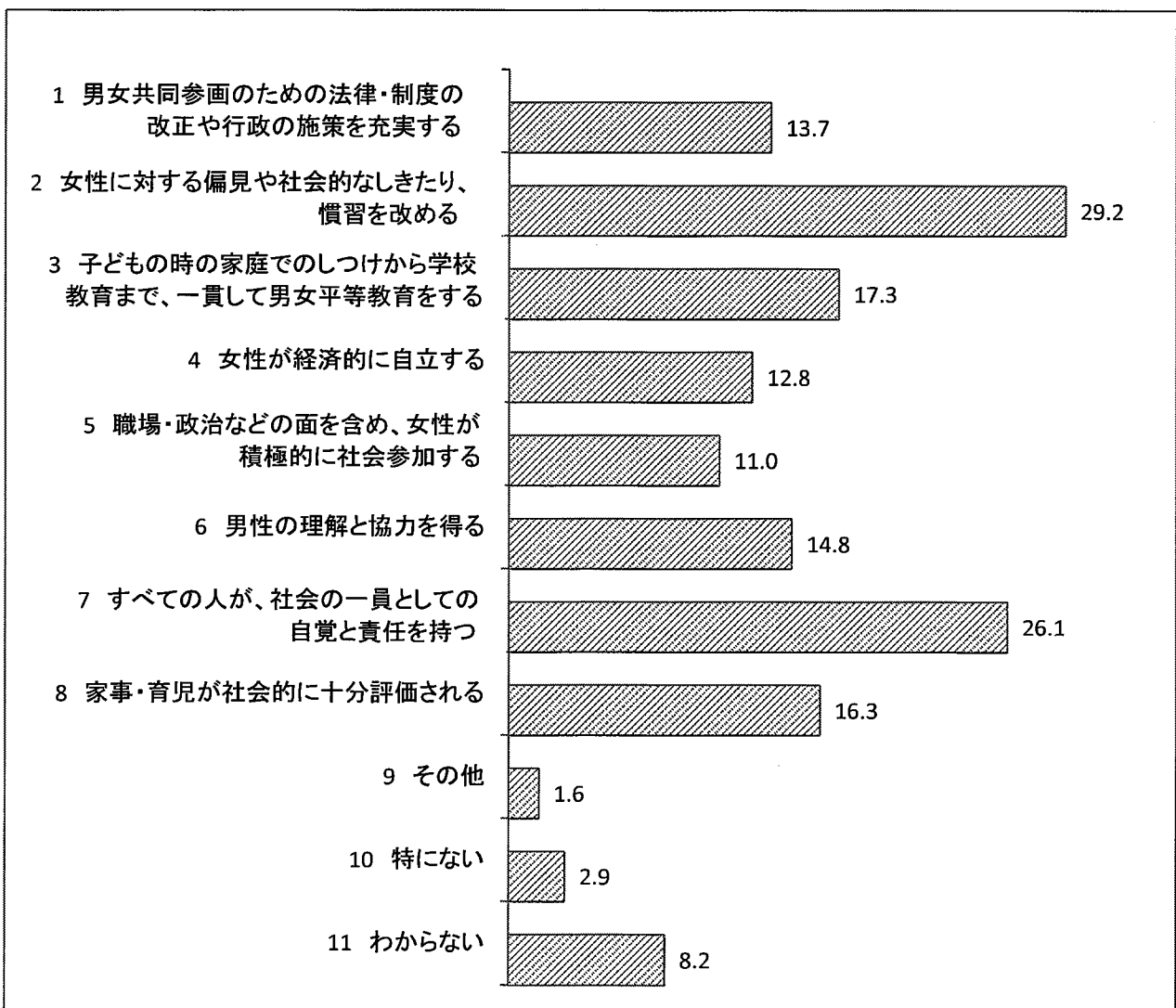


3.25 男女共同参画社会の実現に向けて必要なこと

問25 性別に関わらず社会参加を進め、すべての人があらゆる分野で平等な立場で協力しあっていくためには、どんなことが必要だと思いますか。
(○は2つまで)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 男女共同参画のための法律・制度の改正や行政の施策を充実する	13.7
2 女性に対する偏見や社会的なしきたり、慣習を改める	29.2
3 子どもの時の家庭でのしつけから学校教育まで、一貫して男女平等教育をする	17.3
4 女性が経済的に自立する	12.8
5 職場・政治などの面を含め、女性が積極的に社会参加する	11.0
6 男性の理解と協力を得る	14.8
7 すべての人が、社会の一員としての自覚と責任を持つ	26.1
8 家事・育児が社会的に十分評価される	16.3
9 その他	1.6
10 特にない	2.9
11 わからない	8.2

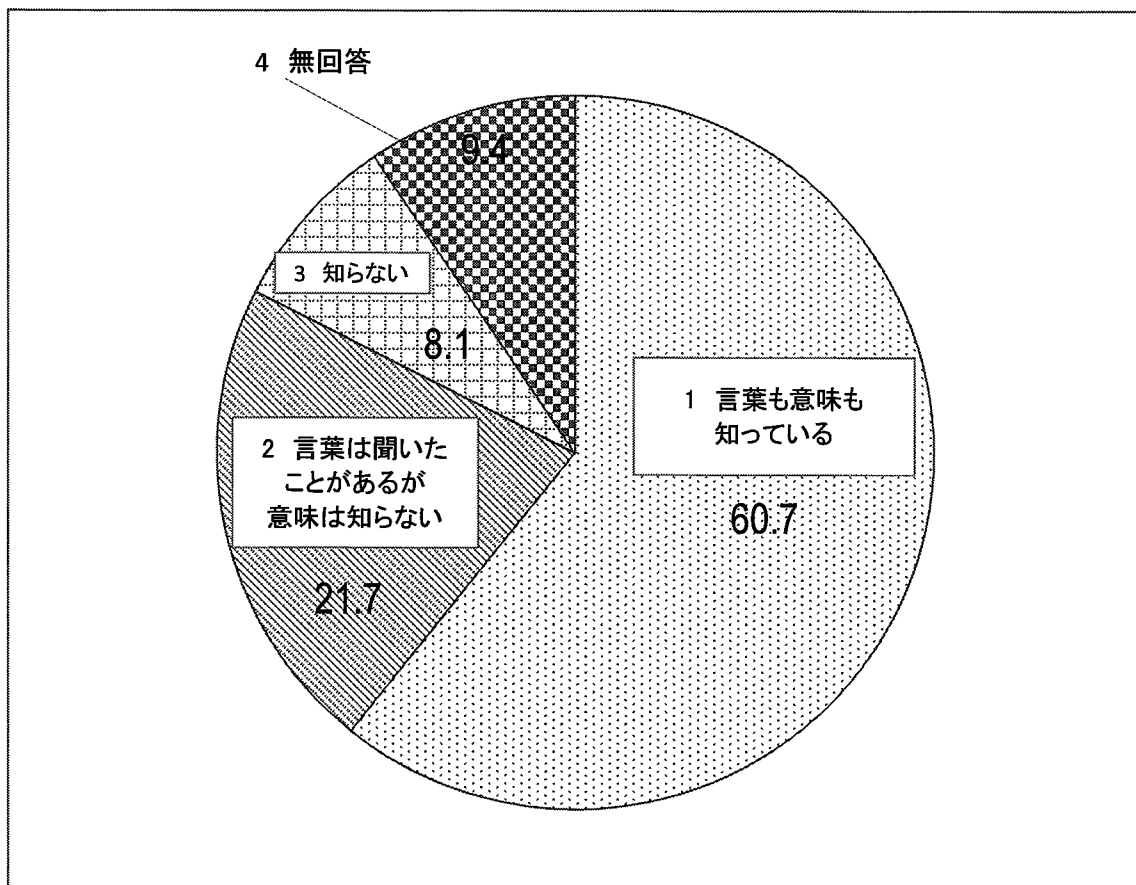


3.26 「LGBTQ」の周知度

問26 「LGBTQ」または「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）」という言葉（両方またはどちらか一方）を知っていますか？
（○は1つだけ）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 言葉も意味も知っている	60.7
2 言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	21.7
3 知らない	8.1
4 無回答	9.4

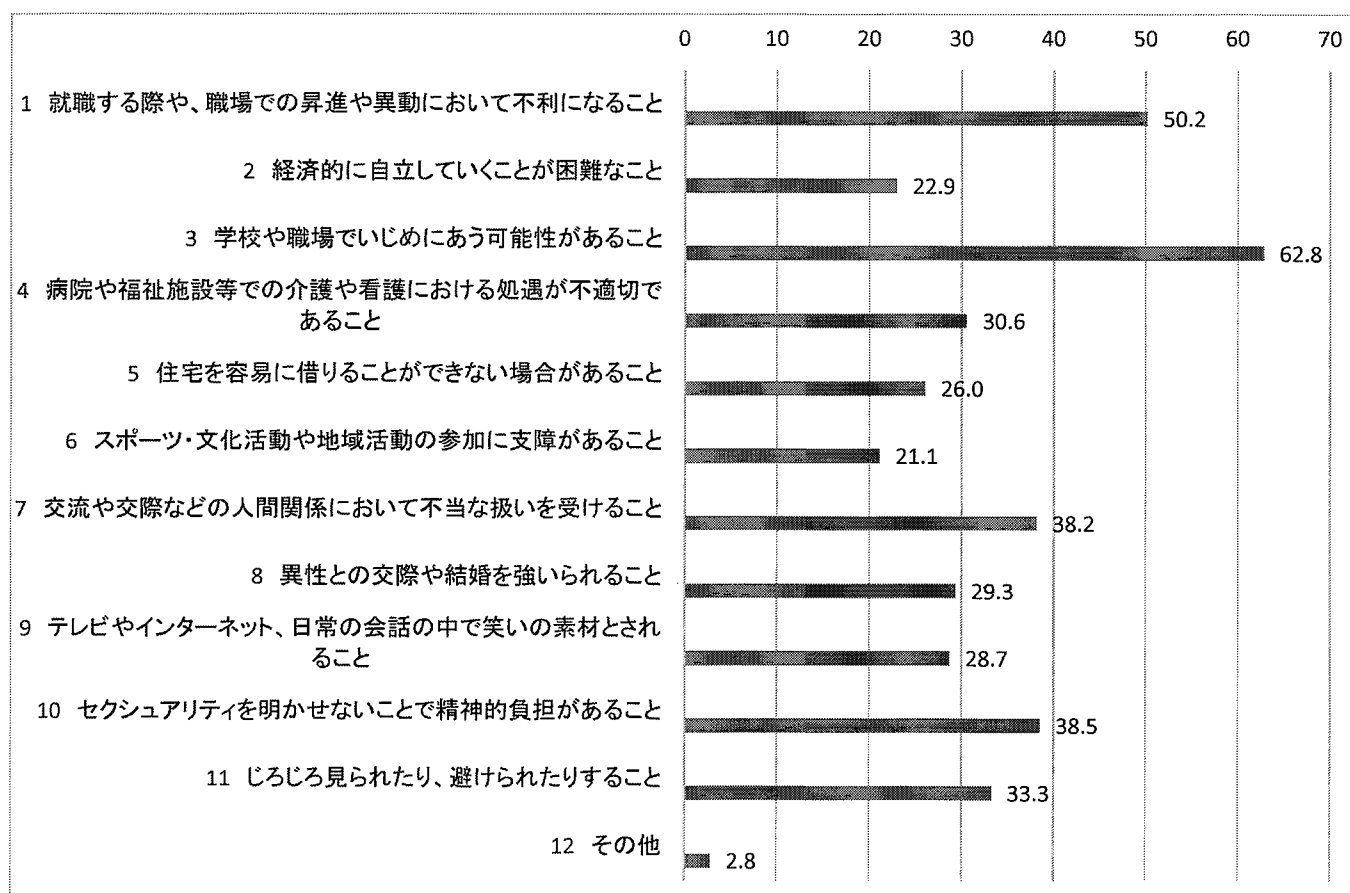


3.27 「LGBTQ」に関する人権問題

問27 次のLGBTQ（性的少数者）に対する事がらで、人権上問題があると思われるものはどれですか？（あてはまるものすべてに○）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 就職する際や、職場での昇進や異動において不利になること	50.2
2 経済的に自立していくことが困難なこと	22.9
3 学校や職場でいじめにあう可能性があること	62.8
4 病院や福祉施設等での介護や看護における処遇が不適切であること	30.6
5 住宅を容易に借りることができない場合があること	26.0
6 スポーツ・文化活動や地域活動の参加に支障があること	21.1
7 交流や交際などの人間関係において不当な扱いを受けること	38.2
8 異性との交際や結婚を強いられること	29.3
9 テレビやインターネット、日常の会話の中で笑いの素材とされること	28.7
10 セクシュアリティを明かせないことで精神的負担があること	38.5
11 じろじろ見られたり、避けられたりすること	33.3
12 その他	2.8



3.28 男らしさ、女らしさ

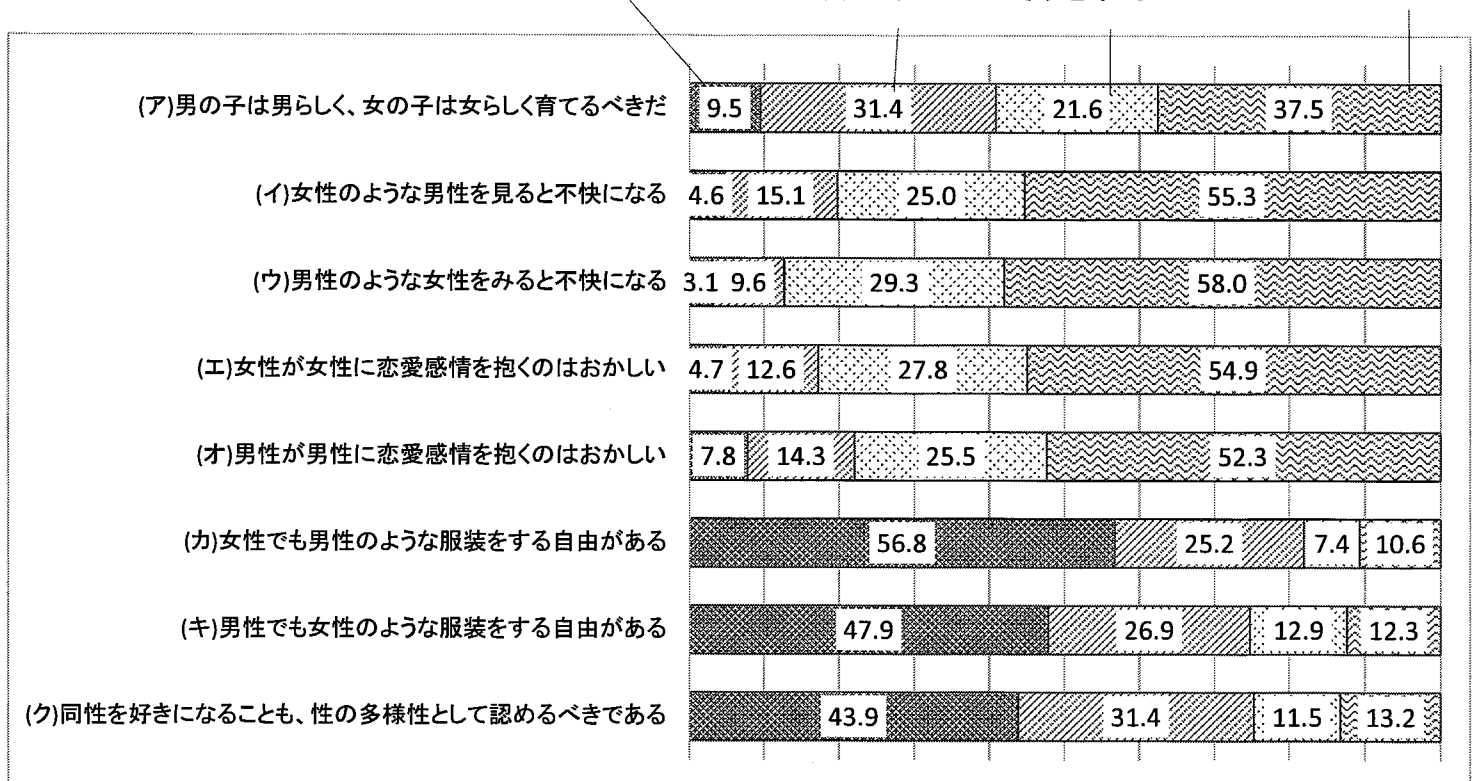
問28 次の（ア）～（ク）の各項目について、あなたの考えや気持ちにもっとも近いものを、1～4から1つ選んでください。（〇は各項目1つずつ）

[n=815]

表中の数値は回答率(%)

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
（ア）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	8.6	2.8	19.5	33.9	9.7
（イ）女性のような男性をみると不快になる	4.2	13.6	22.5	49.7	10.1
（ウ）男性のような女性をみると不快になる	2.8	8.6	26.3	52.0	10.3
（エ）女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい	4.2	11.3	24.9	49.2	10.4
（オ）男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい	7.0	12.8	22.8	46.7	10.7
（カ）女性でも男性のような服装をする自由がある	51.0	22.7	6.6	9.6	10.1
（キ）男性でも女性のような服装をする自由がある	42.9	24.2	11.5	11.0	10.3
（ク）同性を好きになることも、性の多様性として認めるべきである	39.3	28.1	10.3	11.8	10.6

そう思う どちらかと言えば
そう思う どちらかと言えば
そう思わない



※回答率は「無回答」を除いて再計算したもの

3.29 「LGBTQ」を受け入れられるかどうかについて

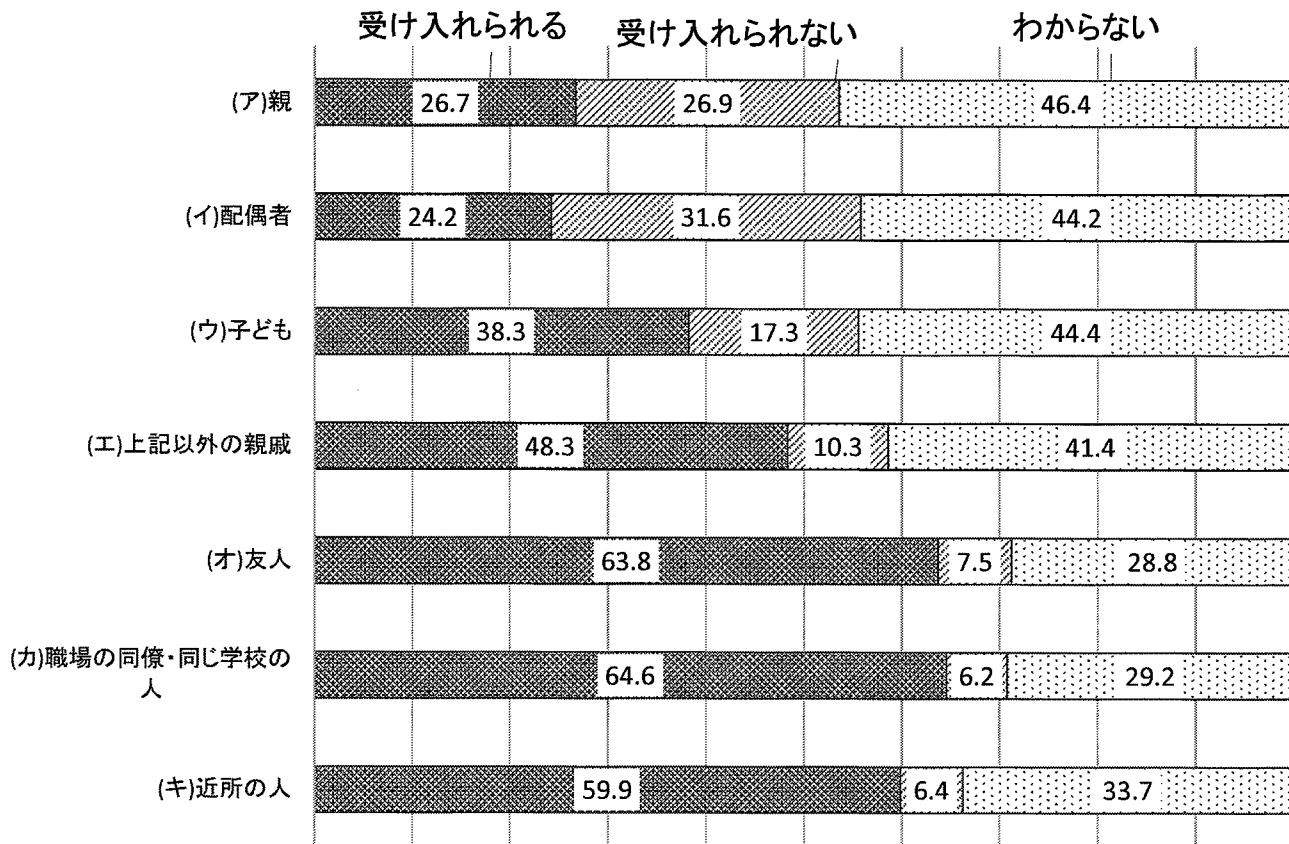
問29 あなたは、次の（ア）～（キ）の身近な人が、①「同性が（も）好きである（同性（両性）愛者）」や、②「自身の性別に違和感を持っている（トランスジェンダー）」と知ったとき、受け入れられますか？
（○は各項目1つずつ）

[n=815]

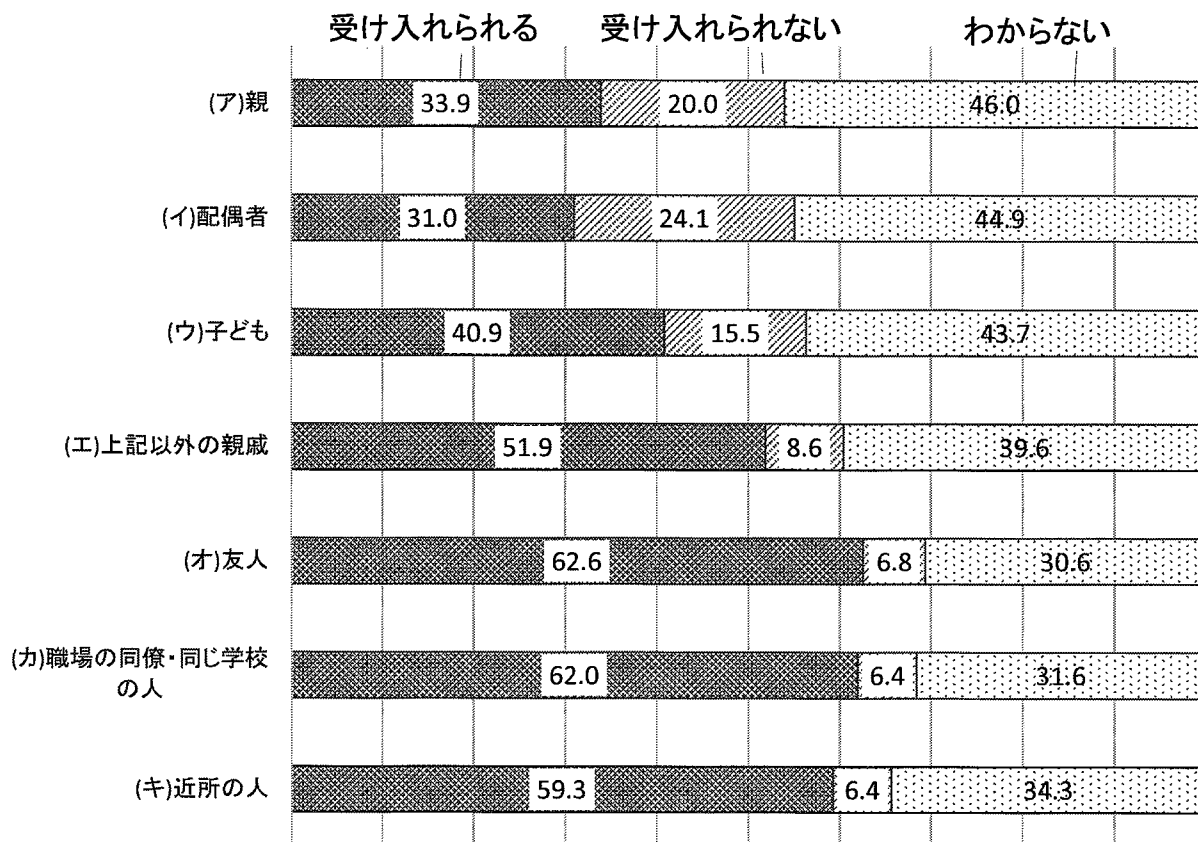
表中の数値は回答率(%)

		受け入れられる	受け入れられない	わからない	無回答
① 「同性が（も）好きである（同性（両性）愛者）」	（ア）親	23.7	23.8	41.1	11.4
	（イ）配偶者	21.5	28.0	39.1	11.4
	（ウ）子ども	33.9	15.3	39.3	11.5
	（エ）上記以外の親戚	42.6	9.1	36.4	11.9
	（オ）友人	56.6	6.6	25.5	11.3
	（カ）職場の同僚・同じ学校の人	57.3	5.5	25.9	11.3
	（キ）近所の人	52.8	5.6	29.7	11.9
② 「自身の性別に違和感（トランスジェンダー）」	（ア）親	29.9	17.7	40.6	11.8
	（イ）配偶者	27.4	21.2	39.6	11.8
	（ウ）子ども	36.0	13.6	38.4	12.0
	（エ）上記以外の親戚	46.0	7.6	35.1	11.3
	（オ）友人	55.2	6.0	27.0	11.8
	（カ）職場の同僚・同じ学校の人	54.7	5.6	27.9	11.8
	（キ）近所の人	52.6	5.6	30.4	11.3

「同性が(も)好き」(同性(両性)愛者)



「自身の性別に違和感」(トランスジェンダー)



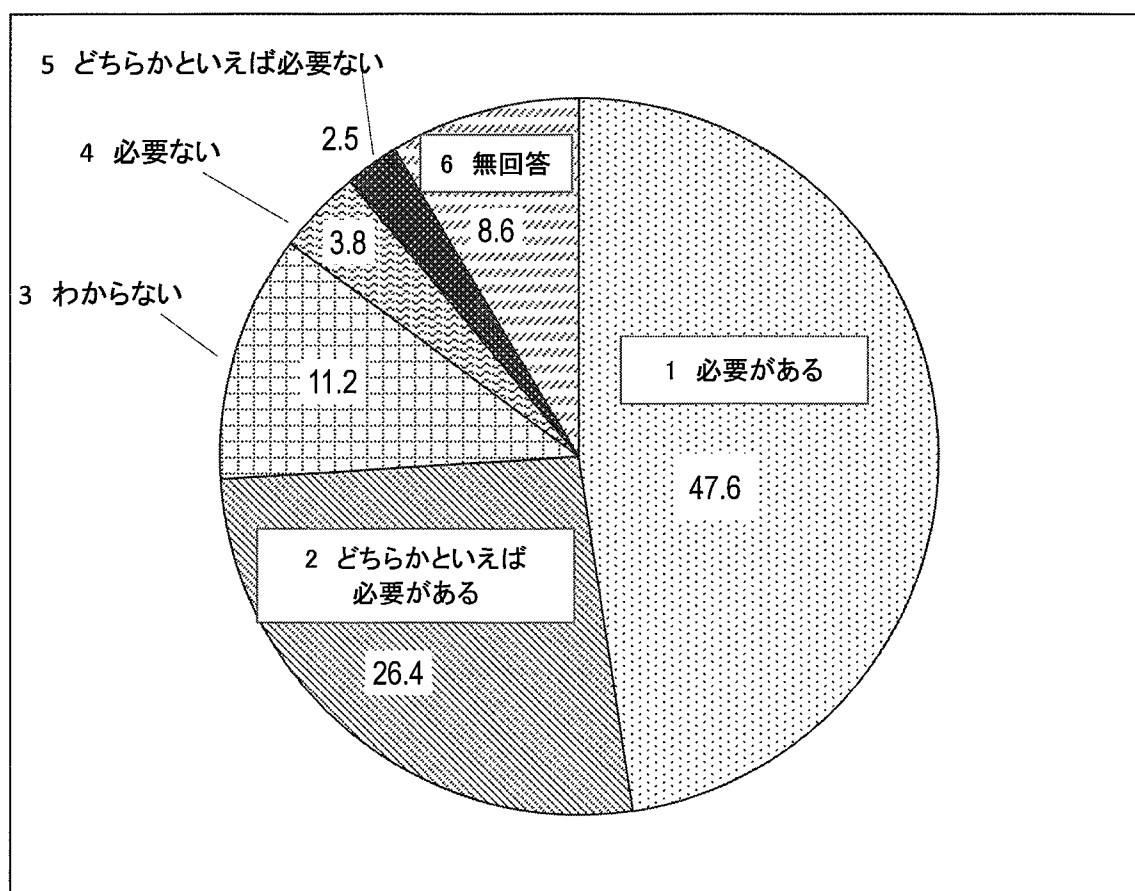
※回答率は「無回答」を除いて再計算したもの

3.30 防災・災害復興対策への女性の視点に配慮した対応について

問30 あなたは、防災・災害復興対策に、女性及び性的少数者などの視点に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。
(○は1つだけ)

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 必要がある	47.6
2 どちらかといえば必要がある	26.4
3 わからない	11.2
4 必要ない	3.8
5 どちらかといえば必要ない	2.5
6 無回答	8.6

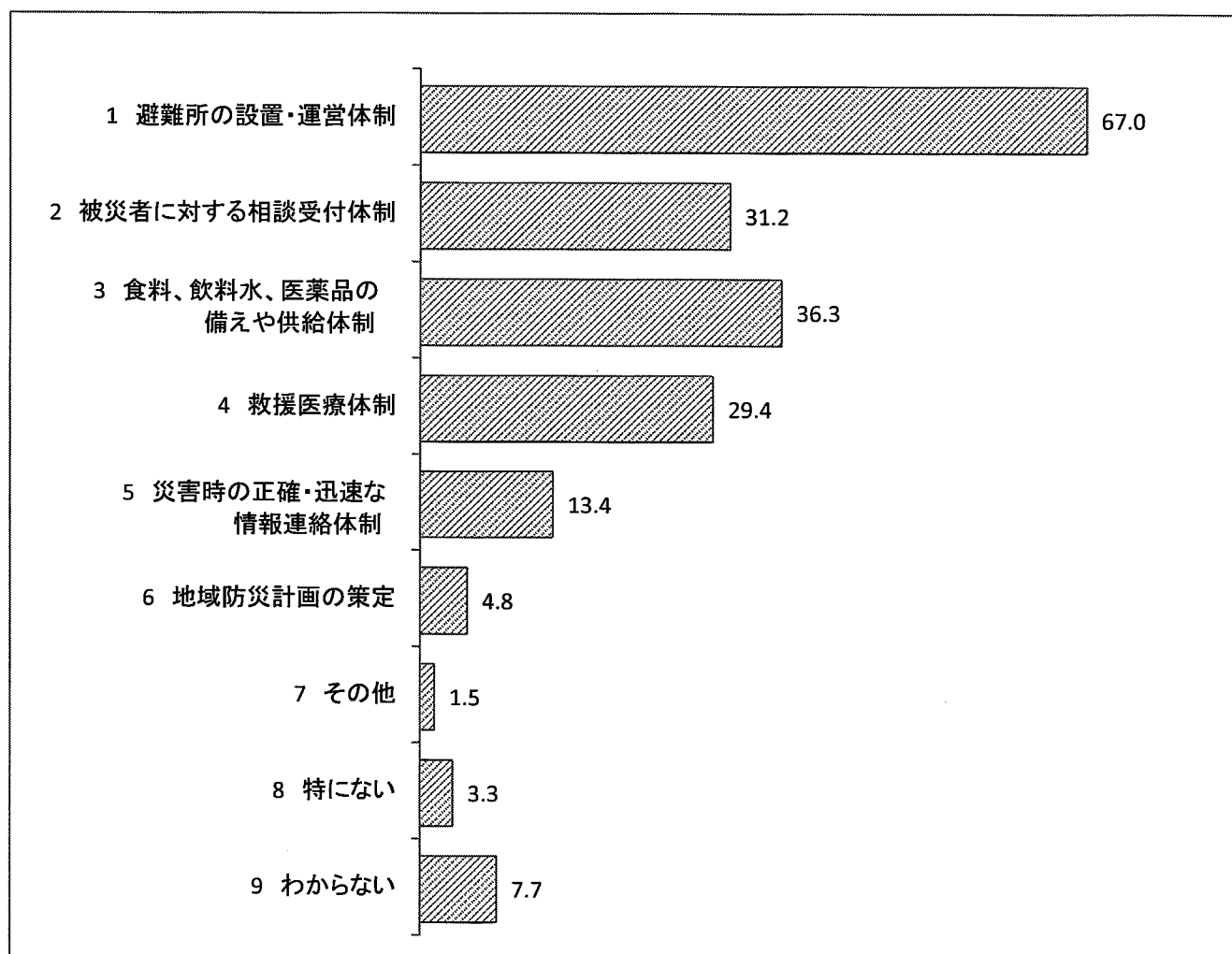


3.31 防災・災害復興対策で女性の視点が必要なこと

問31 防災・災害復興対策で、女性及び性的少数者などの視点到配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。（〇は3つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1 避難所の設置・運営体制	67.0
2 被災者に対する相談受付体制	31.2
3 食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制	36.3
4 救援医療体制	29.4
5 災害時の正確・迅速な情報連絡体制	13.4
6 地域防災計画の策定	4.8
7 その他	1.5
8 特にない	3.3
9 わからない	7.7



3.32 男女共同参画社会の実現に向けた市への要望

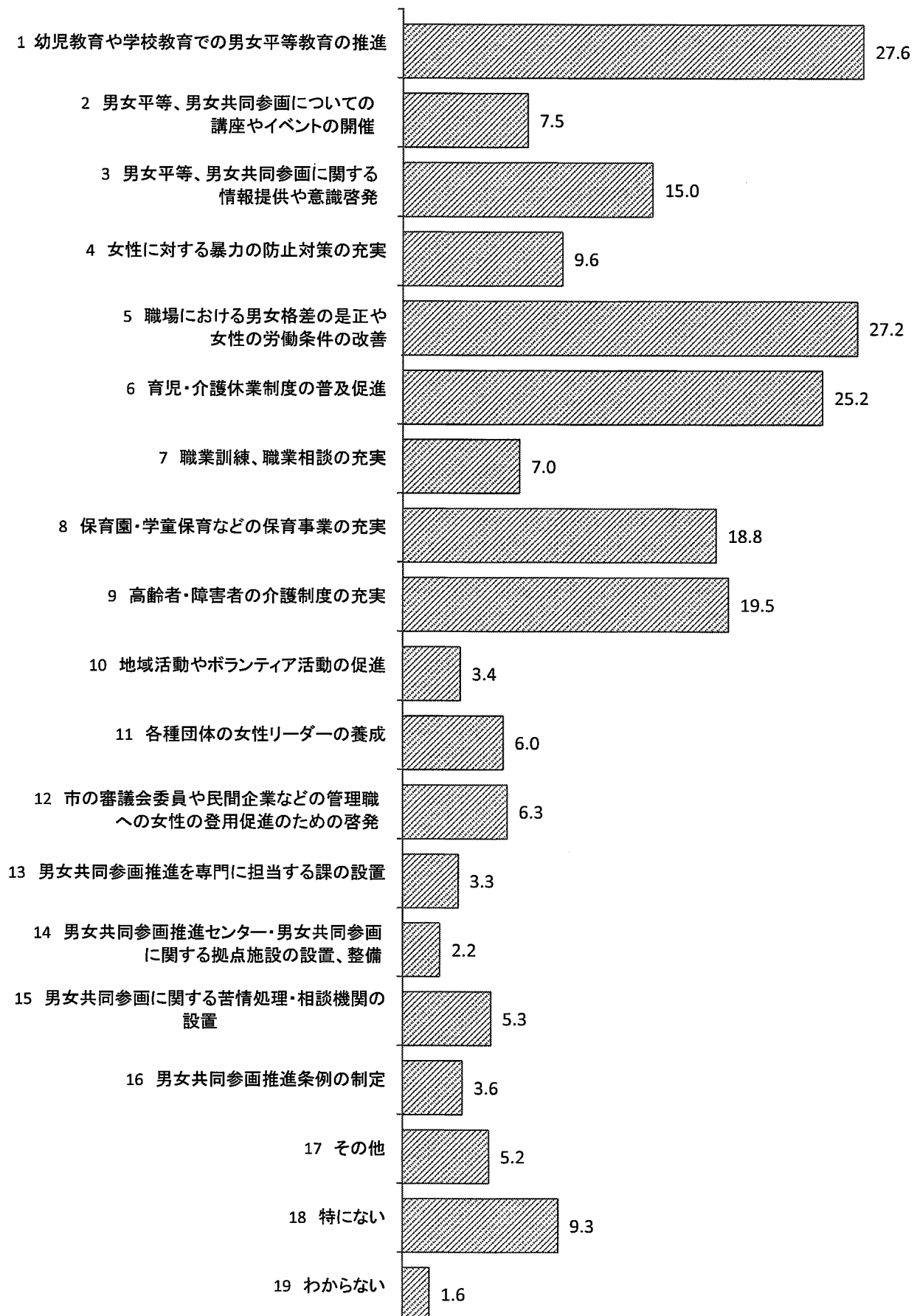
問32 男女共同参画社会を実現するために、茂原市にどのようなことを期待しますか（○は3つまで）

[n=815] 表中の数値は回答率(%)

1	幼児教育や学校教育での男女平等教育の推進	27.6
2	男女平等、男女共同参画についての講座やイベントの開催	7.5
3	男女平等、男女共同参画に関する情報提供や意識啓発	15.0
4	女性に対する暴力の防止対策の充実	9.6
5	職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善	27.2
6	育児・介護休業制度の普及促進	25.2
7	職業訓練、職業相談の充実	7.0
8	保育園・学童保育などの保育事業の充実	18.8
9	高齢者・障害者の介護制度の充実	19.5
10	地域活動やボランティア活動の促進	3.4
11	各種団体の女性リーダーの養成	6.0
12	市の審議会委員や民間企業などの管理職への女性の登用促進のための啓発	6.3
13	男女共同参画推進を専門に担当する課の設置	3.3
14	男女共同参画推進センター・男女共同参画に関する拠点施設の設置、整備	2.2
15	男女共同参画に関する苦情処理・相談機関の設置	5.3
16	男女共同参画推進条例の制定	3.6
17	その他	5.2
18	特にない	9.3
19	わからない	1.6

上位5件

①幼児教育や学校教育での男女平等教育の推進	27.6%
②職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善	27.2%
③育児・介護休業制度の普及促進	25.2%
④高齢者・障害者の介護制度の充実	19.5%
⑤保育園・学童保育などの保育事業の充実	18.8%



3.33 男女共同参画社会づくりに関する意見・要望

問33 男女共同参画社会づくりに関して、ご意見・ご要望などご自由にお書きください。

男女共同参画社会づくりに関する意見・要望については、回答者814人のうち、70人（男性29人、女性39人、不明1人）の方から回答が寄せられました。
ここでは意見や要望の概要について内容を分類してまとめました。
多くの貴重なご意見・ご要望をお寄せいただき、ありがとうございました。

◎男女共同参画社会、男女共同参画意識について

- ・ 男女共同参画については、あまり力まない方がよいと思います。（60代・男性）
- ・ 時代の流れで、今は偏見・差別をしてはいけない世の中になり、色々難しいですが、自己主張をして堂々と生きていってほしい。（70代・男性）
- ・ セミナー、交流の場を増やす、活動しやすくする。一人一人の個性を生かし自由に。（30代・女性）
- ・ 性別は関係ないため、力や責任感、気合のある方が選ばれて当然。（70代・男性）
- ・ 男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる社会が当たり前になるといいです。（50代・女性）
- ・ （体力面を除き）男女の別の意識を変えていくことが必要なのかなと思います。（50代・女性）
- ・ 男女共に平等に自由にご活躍される未来があったら素晴らしいです。（30代・女性）
- ・ 男女共同参画という言葉がなくなるように、人間関係が築ける社会になってほしい。核家族は良くない。コミュニケーション・人間関係・教育難しいと思う。トットちゃんの子ども好き、人間好きな先生がいたらよい。（30代・女性）
- ・ 男女という意識での参画ではなく、個人の能力・特性を活かした参画を期待していきたい。誰でも、何か出来る事がある、居場所がある。地域は、その特性が集まり、話し合いながら、時代の変化に積極的に対応していく場所に成長していければと思う。（60代・女性）
- ・ 本当に心の底から好きな人と結婚すること。いなければ一生独身でいいのです。（50代・女性）
- ・ 特にないです。ジェンダーも受け入れています。（30代・女性）
- ・ 男女平等でだれもが安全で安心なまちづくりをしてほしいです。（60代・女性）
- ・ 平等にしていけばいいと思う。（40代・女性）
- ・ 仲良く生活するためには古い考えの方々（70代～）の方々への教育は必要だと思う。（40代・女性）
- ・ 弱い立場の女性が、今後も活躍できる社会になるには行政・企業の連携や男性の意識改革が必要だと思います（夫より）。
生理休暇の理解促進や、育児休業の充実、取得後のフォローなど、全ての男性に理解を深めていく、女性への理解を深めることが重要だと思います。（20代・女性）
- ・ もし、講演会の企画があれば、ジェーン・スーさんの講演を希望します。
男女共同参画社会づくり、多様性のコンセプトに合う方だと思います。（20代・女性）

- ・私は個人的に”今までのように男らしく生きたい男”と”女らしく生きたい女”もいるだろうし、そうでない生き方をしたい人もいると思う。すべての人々が圧力をかけられず自身の求めるように生きれば良いだけだと思う。他人になぜ口出ししてしまうのか？参政したい人は男でも女でもしたら良いし、家事をしたい人は男でも女でもしたら良い。「女もやりましょう、増やしましょう」「男もやりましょう、増やしましょう」は違うと思うんです。どう思います？（30代・女性）
- ・田舎なので、なかなか理解されない事が大きいと思う。（70代・男性）
- ・男女共同参画についての現状と課題が分からない。情報の提供、公表が必要。個人情報・プライバシーの視点から、一定の専門家の中での議論で処理されているような気がする。もって、情報公開を推進し、広く一般市民に課題提起すべきではないか。（70代・男性）
- ・社会的通念的に妥協してきたような気がします 個人としてもっと考える必要があると思いました。（70代・女性）
- ・老人を含めての大人の意識改革が遅れているので、気づきの場を増やす。（50代・男性）
- ・ご年配の方々の意識を変えていくことはなかなか難しいと思うので、若者の意識を変えていけば良いのではないかとおもう。（30代・女性）
- ・男女問わず、個々の気持ちの持ち方次第で、どちらにでも、転ぶ。皆んなが平等な扱い受ける社会作りが急務だと思う。（60代・男性）
- ・私も含めて今のじいさんばあさんがいなくなれば変わると思いますよ。（50代・男性）
- ・まずは男女共同参画について、市民の認知度を高める発信をする。（50代・女性）
- ・日本全体の問題なのでとりあえずそれは国が流れ作るまで一旦置いておいていい気がしている。正直誰も言われるまで気にしていないのでは？（20代・男性）

◎男女の違い、役割分担に関すること

- ・無理に男女平等にこだわる必要はないと思います。（男か女ではなく一個人なので）（40代・女性）
- ・女性自身の男性への依存が強いことが一番の問題だと思うので、女性への意識改革が必要。（70代・女性）
- ・女性の子育て・介護等、大変な思いをされていますが、いかにそれを軽減してあげられるか、それによって社会に出ていける時間を増やしてあげられるかを、これから考えなくてはいいと思います。（60代・男性）
- ・男女平等といっていますが、それはありえないと思います。
女性の考えは幅が狭く、広い事の考え方が乏しい、目に見える事だけで、その後ろにある問題を見ることができないからです。（60代・女性）
- ・むずかしい問題。男女の給与、権限、人格すべて平等にしないと進まないか？日本は昔ながらの慣習が残っているので...現状、日本では女性は大切にされていると思う。（70代・男性）
- ・中学の制服が、男女ではなくAタイプ、Bタイプになるなど、以前より男女共同参画社会づくりに取り組み、我々親世代より子供たちは考え方に柔軟性をもっているように感じます。ただ男女平等といえども、男女では体の差、考え方にも差があるように思うので、育児を男性がすぐにできるかということは難しく、男女を無理に平等と考えると、今までスムーズにいていたことが難しくなることもあるのかなと思います。男性の産後うつなど今後心配です。（40代・女性）
- ・生物学的に男女は異なり、ただ同じように対応することは困難。一律に数を同じにすることは性差を無視している。男女の特性に配慮し、単に数合わせで社会を構成すべきではない。（60代・女性）

- ・女性だからといろいろなリーダーにしたり、役職を与えたりするのではなく、その人に見合った場所で活躍できることが男女平等だと思う。(20代・男性)
- ・労働者人口の減少や先進国との比較から、叫ばれ始めた気がする。制度設計をする人間が真に男女共同参画を考え、これまでの社会を変えようとしているようには思えない。そもそも昭和の日本は男が仕事、女が家庭という考え方で人口は増えていた。世界からは異質と言われても間違いだったとは言い切れないのではないか。(40代・男性)
- ・もうここまで男女差を言われるなら、いっそ男女の区別を全部やめてしましましょう。トイレやお風呂も男女分けなくていいでしょう。スポーツも?男女一緒にいい。完全能力制にすればいい。根本的に男女区分を無くせば必然的に男女共同参画社会になるのでは?(40代・男性)
- ・女性の政治参加、男性の家庭や育児への参加などは、もともとの性差による特性を十分に理解したうえで検討願いたい。何事も流行りに乗る事なく、物事の真実を捉える視点を養う事で、男女差の真理を理解した男女共同参画が見えてくるだろう。(50代・男性)
- ・田舎地域は、男の子だから、女の子だからが未だ口癖。意識の差だと思う。(40代・男性)

◎子育て環境、教育について

- ・家庭や学校教育の中で小さい頃から感じさせることが一番かなと思っています。(80代以上・女性)
- ・男女平等だということはもちろん必要な概念だが、小さい頃から小中高とお金の教育をし、小さい頃から就業体験をさせて、将来は何をして食べていきたいのかということを早いうちから考えさせたらいいと思う。小さい頃からやりくり・節約・料理・掃除・身の回りのことが一通りでき、一人暮らしができるように、男女共にさせるべきと思う。(60代・女性)
- ・保育所・学童保育が充実し、必ず入れるとなれば、仕事を辞めないと思います。女性が働けば、経済的にも自立できるし、リーダーとして必要な経験も得られると思います。(50代・女性)
- ・時代が変わってきて、教育に取り組まれているのは良い事だと思います。弱い者いじめや犯罪の多い世の中が変わってもらえるのであれば、子供さん達に教育してあげて頂けたらそれで良いです。(50代・女性)
- ・性別・ジェンダーに関わらず、金融教育を行い、資産形成の具体的手法を教える必要があると考えます。学校での教育から高齢者への教育まで、幅広く実施いただきたいです。男女共同参画社会づくりや出生数など、大体の問題は金融教育で解決できるはずです。(20代・男性)
- ・根本に正しい性教育があって、子供を作ること育てることが絶対ではないけれど、それらを行うのは性別ではなくて愛のある人間であることを知りたかった、もっと前に。知っていたら違った事が、きっと自分にも相手にもあったんじゃないかと。そこから家庭や仕事にお互いを組み込むという自然な考えが生まれてくる可能性があるのかもしれない。可能性にかけて若いうちから性と命の教育がもっとあっていいと思う。(40代・女性)
- ・まずは小さい子供たちから男女の差を無くすことが重要な気がします。例えば、学校で男の先生が可愛いグズやカラーなどを当たり前のように使う。逆に女の先生はカッコいいものを使う。体育では男女別では無く一緒にする。ただ男性と女性はどうしても体の作りが違うので男女で人数を半々にしっかりチーム分けして行うこと等で配慮する。(20代・女性)

◎労働、仕事と家庭の両立について

- ・ 女性の～、女性の～、ではそもそも差別していると感じる。女性の働き方だけでなく、男性の働き方、職場環境も考えていく必要がある。家事を分担しようにも家にいる時間がほとんどないため難しい。(40代・男性)
 - ・ 子育てに両親で平等に関われるようにするには、育児休暇を取った後に周りの人への負担が無いように、その間別の人を、パートでも良いので雇うことができる環境づくりが必要。その制度があれば、休暇を取りやすくなる。一般企業でも出来ると良い。女性への負担は、男性が思うより大きい。それを、夫婦で聞くことが出来る機会を必ず設けるようにする。夫婦の両親も、昔とは違うということを理解していけるように、一緒に聞くなど。(50代・女性)
 - ・ 無理に男女の比率を合わせようと「能力に値しない女性」を組み込むことは良くないと思います。男女共に、「能力」を重視することが大切だと思います。私は女性ですが、女性を変に持ち上げる様なことは良くないと思います。男性の方が社会的経験、能力ある人材が豊富なのは事実です。(50代・女性)
 - ・ 20代で私が働いていた頃は、男性の下で働き、女性は軽視されていました。女性は時折考えられなくなる時もあるので、充分に理解をして参画社会にしてほしいと思います。(60代・男性)
 - ・ 男女が安心して暮らせるよう、賃金の向上、就職のしやすさ、休暇の取りやすさを改善してほしいです。(40代・男性)
 - ・ 男女を平等にという結果、差別や少子化が進んだ。また、能力のない人が上に引き上げられると社会全体に影響があるので、能力重視でしてほしい。ただ男女で適性があるのは確かなので、比率ではなく、あくまでも能力。問題はそれを評価できる人材がいらない。(40代・男性)
 - ・ 女性が働きやすい企業づくりを進めてください。(70代・男性)
 - ・ 男性の育休・介護休暇が取得しやすくなって欲しい。(40代・男性)
- 女性への資格取得について補助を出すなど、女性への社会進出への優遇。父親になった時の男女の家庭の働きへの啓発活動と同時に、母親へも父親への対応や職場復帰などへの啓発活動。(40代・男性)

◎茂原市について

- ・ 男女共同参画社会の形成には、学校・企業・地域社会・各家庭が高い意識を持って一体となって進めていくことが大事であり、そのため市は情報の提供や関係組織と緊密に連携して取り組んでいただきたい。(70代・男性)
- ・ 田舎では厳しい。女性で年収300以上稼がないと無理。現状できる人は限られる。(40代・回答しない)
- ・ 熊本のように、TSMCのような大型企業誘致に力を入れてほしい。(40代・男性)
- ・ 市議会議員の比率を5:5にする。(60代・女性)
- ・ 結婚相談所等、早急に改善して欲しい。(60代・男性)
- ・ 昔から言われていることなのに、具体的に「こういう事に取り組んでいる」といった明確な発信がなされていない様に思う。(60代・女性)
- ・ 議員はもちろん、部長など、市も女性の管理職を半分にすべき。でないと、議会で女性の意見が反映されない。(40代・女性)
- ・ 市職員の女性登用推進。市議の女性候補擁立。若い(男)女の活躍(70代・男性)
- ・ 若い人たちを沢山集めて、気軽な意見交換を何度も重ねる。(60代・女性)

- ・ 地方自治体が、男女共同参画社会づくりをする必要性を感じない。行政は、女性であれ、男性であれ、LGBTであれ、障がい者であれ、若年者であれ、高齢者であれ、全ての市民に公平にサービスを提供するだけで十分です。借金まみれで、やるべきこともやらない、問題山積なのにその問題解決もせずに放置し、お金を使って上から目線で「社会づくり」をしようとする試みが、正直ウザイです。（60代・女性）

◎男女共同参画社会づくりに向けての意識調査について

- ・ 途中から性の問題についての質問が多くなっていたようですが、他にももっといろいろと考えることがあるでしょう？マイノリティのことばかりではなく、マジョリティのことも考えてほしいです。（40代・男性）
- ・ このアンケートの内容が古臭く、バイアスがかかっているとても不安になった。古臭い価値観で行政が動いているのに、何もリーダーシップをとってかえることはできないだろうな、と思えるアンケートだ。共同という意識が回答欄にはない。社会づくりそのものに、男女関係なく嫌気がさしているだけではないか。（40代・男性）
- ・ 何事も良く考え、まとめ、専門知識など、あらゆる問題解決へ。（40代・男性）
- ・ 難しい質問が多く、回答に時間を要しました。アンケートの集計や分析は大変なご苦労があるかと思いますが、何らかの方向性がみえると良いですね。茂原市の職員の方々のご健闘をお祈りいたします。（60代・女性）
- ・ 長すぎる（40代・男性）

茂原市まちづくりアンケート

ご協力のお願い

市民のみなさまには、日頃より市政にご理解とご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

現在、茂原市をはじめとする地方都市では、人口減少・少子高齢化の進行という大きな課題に直面しております。このような中で、今後、茂原市のまちづくりを進めるうえで、市民のみなさまからご意見をいただくために、アンケート調査を実施します。

アンケート結果については、調査目的以外には使用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせください。ご多忙のところ大変恐縮ですが、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年7月 茂原市長 市原 淳

ご記入にあたって

封筒のあて名となっているご本人が、以下のいずれかの方法によりご回答ください。

【郵送による回答】

- ・ **8月16日（金）**までに、この調査票を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。

【インターネットによる回答】

- ・ 下記のQRコードのサイトから、**8月19日（月）**までにお答えください。



※アンケート調査は、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した3,000人の方に送付しています。

※お答えいただいた内容は個人が特定されることが無いように処理しますので、ご迷惑をおかけすることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

〒297-8511 千葉県茂原市道表1番地

茂原市企画財政部企画政策課

電話 0475-20-1516（直通）

あなたご自身のことについておたずねします（該当する番号に○をつけてください）

問1. あなたの性別を教えてください。（○は1つだけ）

1 男性	2 女性	3 回答しない
------	------	---------

問2. あなたの年齢を教えてください。（○は1つだけ）

1 ~19歳	2 20~29歳	3 30~39歳
4 40~49歳	5 50~59歳	6 60~69歳
7 70~79歳	8 80歳以上	

問3. あなたがお住まいになっている地区を教えてください。（○は1つだけ）

1 茂原地区 [茂原、茂原西、高師、高師町、高師台、萩原町、千代田町、八千代、道表、東部台、小林飛地、中部、町保、上林、鷺巣、上茂原、箕輪、長谷、内長谷、墨田、早野新田、東茂原、大芝、大芝1丁目～3丁目]		2 東郷地区 [千町、六ツ野、木崎、谷本、本小轡、小轡、新小轡、七渡、東郷、中之郷飛地、川島飛地]
3 豊田地区 [長尾、大登、小林、渋谷、腰当、北塚、ゆたか]	4 二宮地区 [国府関、真名、山崎、押日、黒戸、庄吉、芦網、緑ヶ丘]	5 鶴枝地区 [上永吉、下永吉、猿袋、三ヶ谷、立木、台田、野牛、中の島町]
6 五郷地区 [早野、綱島、中善寺、石神、八幡原、六田台、緑町、長清水]	7 本納地区 [本納、法目、高田、榎神房、西野、小萱場]	8 新治地区 [下太田、上太田、大沢、柴名、桂、吉井上、吉井下]
9 豊岡地区 [萱場、弓渡、栗生野、御蔵芝、清水、千沢、南吉田]		

問4. あなたの住居を教えてください。（○は1つだけ）

1 戸建住宅（持ち家）	2 戸建住宅（民営賃貸）	3 集合住宅（持ち家）
4 集合住宅（民営賃貸）	5 公営住宅	6 その他（ ）

問5. あなたが茂原市に住んでいる期間を教えてください。（○は1つだけ）

1 3年未満	2 3年以上5年未満	3 5年以上10年未満
4 10年以上20年未満	5 20年以上	

問6. あなたのご職業を教えてください。(〇は1つだけ)

1 自営業	2 会社員
3 公務員・団体職員	4 専業主婦・主夫
5 学生	6 パート・アルバイト・派遣など臨時的な仕事
7 無職	
8 その他 ()	

問7. あなたの勤務地・通学地を教えてください。(〇は1つだけ)

1 通勤・通学していない	2 茂原市内
3 長生郡内	4 山武郡市内
5 千葉市内	6 その他県内
7 東京都内	8 その他 ()

問8. 一緒に住んでいるあなたのご家族について教えてください。

(1) ご家族の人数はあなたを含めて () 人		
(2) 一緒に住んでいる家族の構成は (〇は1つだけ)		
1 自分だけ	2 夫婦・パートナーだけ (一世代)	3 親と子 (二世代)
4 親と子と孫 (三世代)	5 その他 ()	

問9. あなたは、結婚していますか？

- 1 結婚している（未届だがパートナーと暮らしている場合も含む）
- 2 死別・離別
- 3 結婚していない

問9-1.へお進みください

問9-1. あなたとあなたの配偶者・パートナーは共働きですか。
（パート・アルバイト・派遣等を含む）

- 1 共働き
- 2 片方（男性）だけ働いている
- 3 片方（女性）だけ働いている
- 4 両者とも働いていない

※同時に実施した「茂原市のまちづくりについて」（問10～問31）の設問は省略しています。

【男女共同参画の意識について】

問32. 現在、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。それともそう思いませんか。((ア)～(ク)それぞれについて1～6の番号1つに○)

項目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(ア) 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場の中で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(エ) 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習で	1	2	3	4	5	6
(キ) 政治や政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
(ク) 全体として	1	2	3	4	5	6

問33. 次の言葉を知っていますか。((ア)～(コ)それぞれについて1～3の番号1つに○)

項目	知っている	聞いたことはある	知らない
(ア) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(イ) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(ウ) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(エ) ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	1	2	3
(オ) DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3
(カ) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
(キ) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
(ク) エンパワーメント（力をつけること）	1	2	3
(ケ) アンパイドワーク（家事・育児・介護・看護等の無償労働）	1	2	3
(コ) 男女ハートフル共生プラン～茂原市男女共同参画計画～	1	2	3
(サ) パワー・ハラスメント （職場での立場を利用し受ける、精神的・身体的苦痛）	1	2	3
(シ) マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産をきっかけに 職場で受ける精神的・身体的苦痛や不当な扱い）	1	2	3
(ス) ジェンダーギャップ指数	1	2	3

問34. あなたは、男性・女性の役割や地位など、男女共同参画について話し合ったり、学習したりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 配偶者・パートナーや恋人と話した	2 親子で話した
3 友人同士で話した	4 学校で話したり学習したりした
5 男女共同参画センターや市が行う行事に参加した	6 職場で話したり学習したりした
7 話し合ったり学習したりしたことはない	8 その他()

【男女の役割分担について】

問35. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つだけ)

1 そう思う	2 そう思わない
3 どちらかと言えばそう思う	4 わからない

※次の問36は配偶者・パートナーと同居している方のみお答えください。
それ以外の方は【問37】にお進みください。

問36. あなたの家庭では、次に挙げる事項は、主にどなたが担当していますか。または、過去に担当していましたか。(○は各項目1つずつ)

項目	回答者本人男性	回答者本人(女性)	(男性) 配偶者・パートナー	(女性) 配偶者・パートナー	その他の男性	その他の女性
(ア) 食事の支度	1	2	3	4	5	6
(イ) 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6
(ウ) 日常の買い物	1	2	3	4	5	6
(エ) 掃除	1	2	3	4	5	6
(オ) 洗濯	1	2	3	4	5	6
(カ) ごみ出し	1	2	3	4	5	6
(キ) 大工仕事や電気製品の管理	1	2	3	4	5	6
(ク) 役所や銀行などへの用事	1	2	3	4	5	6
(ケ) 高齢者や病人の世話	1	2	3	4	5	6
(コ) 町内会や自治会への出席	1	2	3	4	5	6
(サ) 子どもの教育	1	2	3	4	5	6
(シ) 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6
(ス) 家計の管理	1	2	3	4	5	6
(セ) 財産・資産の管理	1	2	3	4	5	6
(ソ) 家庭内での主導権	1	2	3	4	5	6

記入欄			
-----	--	--	--

記入欄			
-----	--	--	--

項目	女の子	男の子
(ア) 社会的な地位を得る	1	1
(イ) 経済的に豊かな生活をする	2	2
(ウ) 社会に貢献する	3	3
(エ) 家庭や周りの人たちと円満に暮らす	4	4
(オ) 人間性豊かな生活をする	5	5
(カ) 本人の個性や才能を生かした生活をする	6	6
(キ) 本人の意思に任せる	7	7
(ク) その他()	8	8

- 1 性別にとらわれることなく、一人ひとりの個性を育むような授業をする
- 2 生活指導や進路指導において、性別の区別をなくす配慮をする
- 3 相手へのいたわりや理解が増するような性教育を充実させる
- 4 男女共同参画に関する教員の意識を深める研修を行う
- 5 性差別や人種差別などに問題意識をもたせる
- 6 国際交流や交換留学を活発にし、他国の事例や価値観を学ばせる
- 7今のままでよい
- 8わからない
- 9 その他（)

問39. 女性が一生の間に産む子どもの数(合計特殊出生率)は令和4年(2022年)で1.26人となっています。あなたは、出生率が低い原因は何だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えた
- 2 出産・子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない
- 3 出産・子育てに対する配偶者・パートナーの理解・協力が足りず、片方の精神的・肉体的負担が大きい
- 4 祖父母や隣近所など、保護者以外に出産・子育てを支援してくれる人がいない
- 5 住宅事情や家計が厳しく、出産・子育てに経費がかかりすぎる
- 6 結婚しない人やしたくてもできない人が増えた
- 7 結婚年齢が上昇した（晩婚化）
- 8 子どもを望んでいるができないなど、健康上の理由
- 9 子どもよりも仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた
- 10 将来に希望が持てない中、子どもを作りたくないとする人が増えた
- 11 子育てが面倒で子どもを望まないという人が増えた
- 12 その他（ ）

【介護について】

※次の問40は介護が必要な在宅の方（要介護者）がいる方のみお答えください。
それ以外の方は【問41】にお進みください。

問40. 主に介護しているのは、要介護者から見てどの関係に当たる方ですか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---------------|---------|----------|
| 1 配偶者・パートナー | 2 息子 | 3 息子の妻 |
| 4 娘 | 5 娘の夫 | 6 その他の親族 |
| 7 地域の人・ボランティア | 8 訪問介護員 | 9 その他（ ） |

問41. 在宅での介護は、女性が主たる担い手となることが多いですが、このことについて
どう思いますか。(○は1つだけ)

- 1 女性の役割として当然だと思う
- 2 問題があるが、現実にはやむを得ない
- 3 女性の負担を軽減するほうが良い
- 4 男性が主たる担い手となるべきだと思う
- 5 その他（ ）
- 6 わからない

(○は2つまで)

1 配偶者・パートナー	2 息子	3 息子の妻
4 娘	5 娘の夫	6 その他の親族
7 地域の人・ボランティア	8 訪問介護員	9 その他（ ）

1 男性の仕事が忙しいから	2 休暇が取りにくいから
3 仕事を休むと経済的な損失が大きいから	4 昇進等に影響があると思うから
5 介護・育児に自信がないから	6 介護・育児に対する男性の意識が低いから
7 今までの慣習や風習があるから	8 その他（ ）

※次の問44.は働いている方のみお答えください。働いていない方は【問45】にお進みください。

項目		取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらとも いえない
男性	(ア) 有給休暇	1	2	3	4	5
	(イ) 育児休業	1	2	3	4	5
	(ウ) 介護休業	1	2	3	4	5
女性	(ア) 有給休暇	1	2	3	4	5
	(イ) 育児休業	1	2	3	4	5
	(ウ) 介護休業	1	2	3	4	5

- 1 結婚や出産、子育て中も、育児休業制度等を利用して仕事を続ける
- 2 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 3 子育ての時期だけ一時的に仕事を辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 4 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は仕事に就かない
- 5 子どもができるまで仕事を持ち、その後は仕事に就かない
- 6 仕事を持たない
- 7 その他（ ）

問46. あなたは、性別に関わらず仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1	保育所や放課後児童クラブ（学童保育）の充実
2	保育時間の延長、病児保育など保育サービスの充実
3	育児・介護休業制度の利用や有給休暇の取得がしやすい職場の制度づくり
4	育児・介護休業制度の利用や有給休暇の取得がしやすい職場の雰囲気づくり
5	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援の充実
6	残業時間の削減や長期休暇の取得奨励など労働時間の短縮
7	結婚・育児・介護のために退職した職員の再雇用制度の促進
8	パートタイマーなど非正規雇用者の待遇改善
9	男性の地域社会活動や家庭生活への参加促進
10	男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること
11	その他（ ）

【セクシュアル・ハラスメントについて】

※セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）とは、相手の意に反した性的な言動のことを言います。

問47. これまでに、職場・学校・地域で次のような経験をしたことがありますか。

(〇は職場、学校、地域ごとに当てはまるものすべて)

項目	職場	学校	地域	経験なし
(ア) いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	1	2	3	4
(イ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	1	2	3	4
(ウ) 異性に身体を触られた・じろじろ見られた	1	2	3	4
(エ) 宴会でお酒やデュエットを強要された	1	2	3	4
(オ) 交際を強要された	1	2	3	4
(カ) 性的な行為を強要された	1	2	3	4
(キ) 性的な噂をたてられた	1	2	3	4
(ク) 異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	1	2	3	4
(ケ) 自分の容姿について意見を言われた	1	2	3	4
(コ) 帰宅途中、後をつけられた	1	2	3	4
(サ) 性的な内容のメール（LINE 等の SNS を含む）や手紙、電話を受けた	1	2	3	4
(シ) 裸の写真や卑猥な雑誌を目に付くところに張られた・見せられた	1	2	3	4
(ス) その他（ ）	1	2	3	4

問48. あなたの職場・学校・地域には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付ける窓口がありますか。(○は1つだけ)

1 ある	2 ない	3 わからない
------	------	---------

問49. セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思いますか。

(○は各項目1つずつ、(キ)は自由記述)

項目	そう思う	そう思わない	わからない
(ア) 相手を対等な人間として見ていないから	1	2	3
(イ) 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから	1	2	3
(ウ) 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから	1	2	3
(エ) 日常的なコミュニケーションが不足しているから	1	2	3
(オ) 受ける側が毅然とした対応をしないから	1	2	3
(カ) 一部にモラルの低い人がいるから	1	2	3
(キ) その他 ()			

【ドメスティック・バイオレンス (DV) について】

※ドメスティック・バイオレンス (DV) とは、「配偶者・パートナーや恋人など親密な関係にある方からの身体的・精神的な暴力」のことを言います。

問50. 今までに、配偶者・パートナー・恋人などの親密な関係にある方から次のようなことを受けたことがありますか。(○は各項目1つずつ、(ケ)は自由記述)

項目	何度もあった	1、2回あった	まったくない
(ア) 大声でどなられる、物を投げられる	1	2	3
(イ) 暴言を吐かれる、馬鹿にされるなど、精神的暴力を受ける	1	2	3
(ウ) 交友関係や電話・メール、外出などを細かく監視される	1	2	3
(エ) 何を言っても無視される	1	2	3
(オ) たたく、突き飛ばすなどの肉体的暴力を受ける	1	2	3
(カ) 医療機関での治療が必要となるほど深刻な暴力を受ける	1	2	3
(キ) 生活費を渡されない	1	2	3
(ク) 性的な行為を強要される、避妊に協力してもらえない	1	2	3
(ケ) その他 ()			

※ 次の問50-1.～50-3.は、問50.の(ア)～(ク)のいずれか1つ以上で1または2と答えた方、または(ケ)に回答いただいた方のみお答えください。それ以外の方は次ページの【問51】にお進みください。

問50-1. これまでに、問50で挙げたような行為について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 相談した | 2 相談したかったが、しなかった |
| 3 相談しようとは思わなかった | |

問50-2. 問50-1.で「1 相談した」場合、誰に(どこに)相談しましたか。
(○は当てはまるものすべて)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 親族 | 2 友人・知人 |
| 3 同じような経験をした人 | 4 家庭裁判所・弁護士・警察等 |
| 5 役所の相談窓口、女性サポートセンター等 | 6 医師・カウンセラー等 |
| 7 NPO、市民団体等 | 8 その他() |

問50-3. 問50-1.で「2 相談したかったが、しなかった」、「3 相談しようとは思わなかった」の場合、誰(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(○は当てはまるものすべて)

- | |
|---|
| 1 誰に(どこに)相談してよいかわからなかった |
| 2 相談する人がいなかった |
| 3 恥ずかしくて誰にも言えなかった |
| 4 相談しても無駄だと思った |
| 5 相談したことが分かった、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った |
| 6 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った |
| 7 他人を巻き込みたくなかった |
| 8 子どもに危害が及ぶと思った |
| 9 自分にも悪いところがあると思った |
| 10 相談するほどのことではないと思った |
| 11 その他() |

問5 1. 配偶者・パートナーや恋人などの親密な関係にある方からの暴力について、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか。(〇は2つまで)

1	警察による対応の充実	
2	一時避難所（シェルター）の確保	
3	相談体制の連携充実	
4	相談機関等の周知・紹介	
5	配偶者暴力相談支援センターの整備	
6	被害者の自立のための就業支援や情報提供	
7	加害者の意識啓発	
8	その他（	）
9	わからない	

【社会・地域参加について】

問5 2. 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」、「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。(〇は当てはまるものすべて)

項目	現在参加しているもの	今後参加したいもの
1 スポーツ・サークル活動	1	2
2 ボランティア活動、福祉活動	1	2
3 文化、教養、学習活動	1	2
4 自治会、婦人会、長寿クラブ	1	2
5 子ども会活動	1	2
6 防犯・防災活動	1	2
7 消費者運動・住民運動	1	2
8 PTAの役員、学校等の保護者会	1	2
9 市が行う講座・講演会等への参加	1	2
10 市の審議会（※）等の委員	1	2
11 その他（	1	2

※審議会…有識者や公募委員などが市の政策に関する提言を行う、市の付属機関のこと

問53. これまで男性は、地域活動や家庭生活への参加が比較的少なかったと言われています。地域活動や家庭生活への男性の参加を促進するためには、何が必要だと思いますか。

(○は2つまで)

1	地域活動や家庭生活への参加を促進するための啓発活動をする
2	地域活動に関する情報提供を促進する
3	労働時間を短くして余暇を増やす
4	仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する
5	企業など職場における地域活動への理解を得やすい環境づくりを推進する
6	その他 ()
7	わからない

問54. 自治会やPTAなどの活動では、会長や副会長などのリーダーに女性が少ない傾向がありますが、その原因は何だと思いますか。(○は2つまで)

1	責任のある地位に就きたくないと考えている女性が多いため
2	家事・育児に忙しく、地域活動に専念できない女性が多いため
3	組織活動の経験が少ない女性が多いため
4	指導力のある女性が少ないため
5	女性がリーダーでは、女性がついてこないため
6	女性がリーダーでは、男性がついてこないため
7	女性がリーダーでは軽く見られるため
8	男性がリーダーとなるのが社会慣行であるため
9	その他 ()
10	わからない

問55. 茂原市では、審議会等の女性委員の登用率を30%まで引き上げるという数値目標を設定していますが、令和5年度は23.7%（令和5年4月1日時点）となっています。このことについてあなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

1	現状でよい	2	女性がもう少し増えたほうがよい
3	男女半々ぐらいまで増えたほうがよい	4	女性のほうが多い審議会が増えたほうがよい
5	性別にこだわる必要はない	6	その他 ()
7	わからない		

問56. 性別に関わらず社会参画を進め、すべての人があらゆる分野で平等な立場で協力しあっていくためには、どんなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- 1 男女共同参画のための法律・制度の改正や行政の施策を充実する
- 2 女性に対する偏見や社会的なしきたり、慣習を改める
- 3 子どもの時の家庭でのしつけから学校教育まで、一貫して男女平等教育をする
- 4 女性が経済的に自立する
- 5 職場・政治などの面を含め、女性が積極的に社会参画する
- 6 男性の理解と協力を得る
- 7 すべての人が、社会の一員としての自覚と責任を持つ
- 8 家事・育児が社会的に十分評価される
- 9 その他 ()
- 10 特にない
- 11 わからない

【LGBTQ（性的少数者）について】

※ 本アンケートでは、「LGBTQ」または「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）」とは、同性（両性）愛者やトランスジェンダー（性別違和がある人）、その他の多様な性的指向や性自認を持つ人をいいます。「LGBTQ」は、L＝レズビアン、G＝ゲイ、B＝バイセクシュアル、T＝トランスジェンダー、Q＝クエスチョニング及びクィアの頭文字を合わせた言葉で、その他多様な性をあらわす総称です。

問57. 「LGBTQ」または「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）」という言葉（両方またはどちらか一方）を知っていましたか？（○は1つだけ）

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 言葉も意味も知っていた | 2 言葉は聞いたことがあるが意味は知らなかった |
| 3 知らなかった | |

問58. 次のLGBTQ（性的少数者）に関する事からで、人権上問題があると思われるものはどれですか？（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-----------------------------------|
| 1 就職する際や、職場での昇進や異動において不利になること |
| 2 経済的に自立していくことが困難なこと |
| 3 学校や職場でいじめにあう可能性があること |
| 4 病院や福祉施設等での介護や看護における処遇が不適切であること |
| 5 住宅を容易に借りることができない場合があること |
| 6 スポーツ・文化活動や地域活動の参加に支障があること |
| 7 交流や交際などの人間関係において不当な扱いを受けること |
| 8 異性との交際や結婚を強いられること |
| 9 テレビやインターネット、日常の会話の中で笑いの素材とされること |
| 10 セクシュアリティ（※）を明かせないことで精神的負担があること |
| 11 じろじろ見られたり、避けられたりすること |
| 12 その他（ |

※セクシュアリティとは、その人の性に関係する行動や傾向の総称

問59. 次の（ア）～（ク）の各項目について、あなたの考えや気持ちにもっとも近いものを、1～4から1つ選んでください。（〇は各項目1つずつ）

項目	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない
（ア）男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	1	2	3	4
（イ）女性のような男性をみると不快になる	1	2	3	4
（ウ）男性のような女性をみると不快になる	1	2	3	4
（エ）女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい	1	2	3	4
（オ）男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい	1	2	3	4
（カ）女性でも男性のような服装をする自由がある	1	2	3	4
（キ）男性でも女性のような服装をする自由がある	1	2	3	4
（ク）同性を好きになることも、性の多様性として認めるべきである	1	2	3	4

問60. あなたは、次の（ア）～（キ）の身近な人が、①「同性が（も）好きである（同性（両性）愛者）」や、②「自身の性別に違和感を持っている（トランスジェンダー）」と知ったとき、受け入れられますか？（〇は各項目1つずつ）

項目		受け入れられる	受け入れられない	わからない
① （同性（両性）愛者） 「同性が（も）好き」	（ア）親	1	2	3
	（イ）配偶者	1	2	3
	（ウ）子ども	1	2	3
	（エ）上記以外の親戚	1	2	3
	（オ）友人	1	2	3
	（カ）職場の同僚・同じ学校の人	1	2	3
	（キ）近所の人	1	2	3
② （トランスジェンダー） 「自身の性別に違和感」	（ア）親	1	2	3
	（イ）配偶者	1	2	3
	（ウ）子ども	1	2	3
	（エ）上記以外の親戚	1	2	3
	（オ）友人	1	2	3
	（カ）職場の同僚・同じ学校の人	1	2	3
	（キ）近所の人	1	2	3

【防災・災害復興対策について】

問6 1. あなたは、防災・災害復興対策に、女性及び性的少数者などの視点に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 必要がある | 2 どちらかといえば必要がある |
| 3 わからない | 4 必要ない |
| 5 どちらかといえば必要ない | |

問6 2. 防災・災害復興対策で、女性及び性的少数者などの視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 避難所の設置・運営体制 | 2 被災者に対する相談受付体制 |
| 3 食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制 | 4 救援医療体制 |
| 5 災害時の正確・迅速な情報連絡体制 | 6 地域防災計画の策定 |
| 7 その他 () | 8 特にない |
| 9 わからない | |

【市への要望について】

問63. 男女共同参画社会を実現するために、茂原市にどのようなことを期待しますか。

(○は3つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 幼児教育や学校教育での男女平等教育の推進2 男女平等、男女共同参画についての講座やイベントの開催3 男女平等、男女共同参画に関する情報提供や意識啓発4 女性に対する暴力の防止対策の充実5 職場における男女格差の是正や女性の労働条件の改善提案6 育児・介護休業制度の普及促進7 職業案内、職業相談の充実8 保育園・学童保育などの保育事業の充実9 高齢者・障害者の介護制度の充実10 地域活動やボランティア活動の促進11 各種団体の女性リーダーの養成12 市の審議会委員や民間企業などの管理職への女性の登用促進のための啓発13 男女共同参画推進を専門に担当する課の設置14 男女共同参画推進センター・男女共同参画に関する拠点施設の設置、整備15 男女共同参画に関する苦情処理・相談機関の設置16 男女共同参画推進条例の制定17 その他 ()18 特にない19 わからない |
|--|

茂原市の今後のまちづくりへの提案

男女共同参画社会づくりに関して、ご意見・ご要望などご自由にお書きください。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

8月16日(金)までに、「郵送」または「インターネット」のいずれか一方でご回答ください。

5 用語解説

【あ行】

■アンペイド・ワーク（あんぺいど・わあく）

無償労働（unpaid work）。家事、介護・看護、育児、買物などの仕事や地域活動など、賃金、報酬が支払われないが我々の生活に必要な労働を意味する。

■エンパワーメント（えんぱわめんと）

個人や集団が自らの生活への統御感を獲得し、組織的、社会的、構造に外郭的な影響を与えるようになること。語源は「empowerment」（権限を与えること、能力・実力をつけること）。国連開発計画が導入した概念で、「女性の政治参加や経済における活躍、意思決定に参加できるかどうかを表す指数」として、「ジェンダー・エンパワーメント指数」（GEM=Gender Empowerment Measure）がある。

■LGBTQ（えるじいびいていきゅう）

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシャル（両性愛者）、トランスジェンダー（性別越境者）の頭文字を取った、性的少数者の総称。広義には、クエスチョニング（心の性が男性、女性のどちらかに規定できない、またはしない人々）、アセクシュアル（無性愛者＝好きになる性をもたない人々）、ノンセクシュアル（非性愛者＝恋愛感情を持っても性的欲求を抱かない人々）、パンセクシュアル（好きになる性が性別にとらわれない人々）、トランスヴェスタイトまたはクロスドレッサー（異性の服装を好んで着る人々）等も含む。

【か行】

■固定的性別役割分担（こていてきせいべつやくわりぶんたん）

「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等、男性、女性という性別を理由として役割を固定的に分けること。

【さ行】

■シェルター（しえるたー）

DV被害者等を、加害の原因である配偶者等から隔離して保護するための施設。「DVシェルター」ともいう。

■ジェンダー（じえんだあ）

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの性器、性腺、染色体などの身体的特徴にもとづく「生物学的性別（sex）」がある一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別（gender）」という。

■女子差別撤廃条約（じょしさべつてっばいじょうやく）

1979年（昭和54年）12月18日に国連で採択された多国間条約で、正式名称は「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」。1981年（昭和56年）に発効し、日本は1985年6月25日に批准した。あらゆる分野における性差別を撤廃するために必要な措置を定めており、既存の法律、慣習等を修正または廃止することなどが定められている。

■セクシュアル・ハラスメント（せくしゅある・はらすめんと）

相手の意に反する性的発言・行動による嫌がらせのこと。

【た行】

■男女共同参画社会（だんじょきょうどうさんかくしゃかい）

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、それにより、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のこと。

■男女共同参画社会基本法（だんじょきょうどうさんかくしゃかいきほんほう）

男女が互いに人権を尊重しつつ、能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指して1999年（平成11年）に制定された法律。その2条において、「男女共同参画社会の形成」を「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること」と定義している。

■男女雇用機会均等法（だんじょこようきかいきんとうほう）

雇用の分野で男女の均等な機会や待遇の確保等を目的とする法律で、正式名称は「雇用の分野における男女の均等な機会および待遇の確保等に関する法律」。働く人が性別により差別されることなく、かつ、働く女性が母性を尊重されつつ、その能力を十分に発揮できる雇用環境を目的とする。募集・採用、配置・昇進等の雇用管理の各ステージにおける性別を理由とする差別の禁止や、婚姻、妊娠・出産等を理由とする不利益取扱いの禁止等が定められている。

■男女ハートフル共生プラン～茂原市男女共同参画計画～（だんじょはあとふるきょうせいびらん～もばらしだんじょきょうどうさんかくけいかく～）

茂原市における男女共同参画計画の名称。女性と男性が、互いを理解し協力し合うこと（共生と共創）」を基本理念に、60の施策が盛り込まれている。公募により決定された「ハートフル」という名称が表しているとおり、優しさにあふれ、男女がそれぞれの特性を活かしながら充実した人生を送れる社会を目指して、市民の皆様と協働して計画を推進している。

■DV（でいびい／どめすていっく・ばいおれんす）

夫婦・恋人・パートナー等、親密な関係にある人からふるわれる暴力。「ドメスティック（domestic）」は本来「家庭の」という意味であるが、ドメスティック・バイオレンス（DV）は同居の有無を問わず、元夫婦や恋人など近親者間に起こる暴力全般を指す。

【は行】

■ポジティブ・アクション（ぽじていぶ・あくしょん）

男女が対等な構成員として自らの意思によって社会における活動に参画するとき、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくもの。男女共同参画社会基本法では、積極的改善措置は国の責務として規定され、また、国に準じた施策として地方公共団体の責務にも含まれている。

【わ行】

■ワーク・ライフ・バランス（わあく・らいふ・ばらんす）

国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。平成19年12月に政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定され、現在、様々な取り組みが進められている。

男女共同参画社会づくりに向けての意識調査 アンケート結果

令和7年5月

発行
調査・編集

茂原市
茂原市総合企画部企画政策課
千葉県茂原市道表1番地
電話 0475(20)1651
FAX 0475(20)1602
E-mail kikaku2@city.mobara.chiba.jp